

令和5年度 秋田大学医学部附属病院

病院ガイドブック



photograph by the Hospital Director

～ 皆様から愛される秋田大学医学部附属病院を目指しています ～

Contents

病院長ごあいさつ	2
理念・目標	3
外来診療日一覧	4
組織図	6
特集	7

診療科のご案内

● 消化器内科／脳神経内科	9
● 循環器内科	10
● 血液内科／腎臓内科／リウマチ科	11
● 糖尿病・内分泌内科／老年内科	12
● 呼吸器内科	13
● 消化器外科	14
● 呼吸器外科／食道外科／乳腺・内分泌外科	15
● 心臓血管外科	16
● 脳神経外科	17
● 小児外科	18
● 小児科	19
● 産科婦人科	20
● 精神科	21
● 整形外科	22
● 皮膚科／形成外科	23
● 泌尿器科	24
● 眼科	25
● 耳鼻咽喉科	26
● 放射線診断科／放射線治療科	27
● 麻酔科	28
● リハビリテーション科／リハビリテーション部	29
● 腫瘍内科	30
● 救急科	31
● 病理診断科／病理部	32
● 歯科口腔外科	33
● 高齢者臨床検査科	34



中央診療施設等のご案内

● 中央検査部	35
● 中央手術部	35
● 中央放射線部	36
● 中央材料部	36
● 集中治療部	37
● 高度救命救急センター	37
● 輸血細胞治療・移植再生医療センター	38
● 医療情報部	38
● 血液浄化療法部	39
● 中央病歴部	39
● 周産母子センター	40
● 総合診療部	40
● 臨床研究支援センター	41
● 臨床工学センター	41
● 移植検査センター	42
● 総合臨床教育研修センター	42
● 内視鏡・超音波センター	43
● 遺伝子医療部	43
● 腫瘍情報センター	44
● 地域医療患者支援センター・がん相談支援センター	44
● 化学療法部	45
● 緩和ケアセンター	45
● 肝疾患相談センター	46
● 栄養管理部	46
● 腎疾患先端医療センター	47
● 脳卒中包括医療センター	47
● 認知症医療センター	48
● 総合診療医センター	48
● がんゲノム診療センター	49
● NP室	49
● 医療安全管理部	50
● 感染制御部	50
● 薬剤部	51
● 看護部	51

病院案内図	52
病院駐車場・交通機関案内	53



病院長あいさつ

秋田大学医学部附属病院長

南谷 佳弘

Yoshihiro Minamiya

皆さまから愛される

秋田大学医学部附属病院を目指して

秋田大学医学部附属病院長の南谷佳弘です。病院を代表してご挨拶を申し上げます。新型コロナウイルスの感染が蔓延して4年目となりました。また、2023年5月からは感染症法上の扱いが2類から5類に変更されました。さらに、感染しても当初のように重症化する割合も減ってきました。世間では、これまで我慢してきた分、旅行などに出かける方々も増えてきています。一方、当院は秋田県唯一の特定機能病院として、県内の他の医療機関では治療が難しい難病や重症の患者さんが多く入院されております。これらの患者さんは感染症に弱く、一度新型コロナウイルスに感染すると重篤化する可能性が高いです。そのため、新型コロナウイルスをはじめとする感染症に対しては細心の注意を払って診療を行っております。病院の対応などにはまだまだご不便をお感じになるかもしれませんが、事情を鑑みて何卒ご理解いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

秋田大学医学部附属病院は1970年の秋田大学医学部創設に続いて、翌年に当時の秋田県立中央病院が国に移管される形で開設されました。以降、県内唯一の特定機能病院として、良質で高度な医療の提供と優れた医療人の育成、世界に発信する研究を行ってまいりました。

2007年には都道府県がん診療拠点病院に、2012年には秋田県からのご支援により国内最大級のシミュレーション教育センターが竣工。2013年にはあきた医師総合支援センター設置。2014年にはヘリポート竣工など、秋田県民医療の中核・拠点としての機能と教育・研究機能がますます強化されてきました。2016年にはエボラ出血熱などの第一種感染症にも対応できる病棟も竣工されました。2009年の新病棟竣工後は旧病棟や外来棟の再開発も進み、2015年3月で病院再開発が完了しました。そしてこれらの設備の充実により安全で高度な医療を提供できるばかりでなく、患者さんやご家族には快適な入院生活や外来受診を行えるような環境が整備されました。

設備が充実されていく中で、私たちは「診療」において、臓器移植や骨髄移植、ロボット支援手術を代表とする低侵襲手術、難治性がんや難治疾患に対する総合的治療、またPET-CTをはじめとする高度な画像診断技術など、高度かつ質の高い医療を提供しています。一方、日本全国、特に地方では高齢化、人口減少、そして医師不足の問題があります。将来の医療の姿を見据えて、私たちは附属病院内に2つの新しいセンターを設置しました。総合診療医センターは2020年12月1日に開設され、高度救命救急センターは2021年4月1日に開設されました。さらに、2023年4月には医学部に遠隔医療推進開発研究センターも設立されました。高齢化や人口減少により専門医の医療が受けにくい過疎地域にお住まいの患者さんも高度な医療を受けることができるよう、遠隔医療を発展させてまいります。これらの3つのセンターを中心に、秋田県において将来的に持続可能な医療の新たなモデルを創り上げていく予定です。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

「教育」においては、医学教育に優れたスタッフを多数登用しています。また、医学部や医学系研究科と協力し、県内の医療はもちろん、世界の医療現場で活躍できる優秀な医療関係者を多数育成しています。この取り組みにはあきた医師総合支援センターを活用しています。「研究」においては、医学系研究科との協力を通じて先進医療の推進に取り組んでおり、新規治療薬の開発や医工連携による機器の開発、副作用や合併症の少ない薬剤投与法や手術法の開発などを行っています。

一方、医療の高度化や患者さんの高齢化に伴い、医療従事者の負担が年々増してきました。2024年4月からは、過酷な医師労働を改善するために、働き方改革法案の例外規定が適応されていた医師にも、本法律が適応されるようになり、労働時間に上限が設定されます。そうしたこともあり、今まで二の次になっていた医療従事者自身の幸福も目指しながら、高度な医療の提供が継続できるよう、新たに理念に「病院で働く全ての人々の幸福を目指す」という文言を加えました。

秋田大学医学部附属病院は、これからも「診療」「教育」「研究」という三つの責務を果たしながら、秋田県はもちろん全国の皆さまに満足していただける良質で高度な医療を提供できるよう、医師、看護師、医療系職員、事務職員が丸となって努力してまいります。そして、「皆さまから愛される秋田大学医学部附属病院を目指して」、日々精進してまいりますので、温かいご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

秋田大学医学部附属病院は、これからも「診療」「教育」「研究」という三つの責務を果たしながら、秋田県はもちろん全国の皆さまに満足していただける良質で高度な医療を提供できるよう、医師、看護師、医療系職員、事務職員が丸となって努力してまいります。そして、「皆さまから愛される秋田大学医学部附属病院を目指して」、日々精進してまいりますので、温かいご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



秋田大学医学部附属病院は、次の理念及びそれを達成するための10の目標を定めております。理念・目標を常に心に、これからも秋田県民のための良質で高度な医療の提供、優れた医療人の養成、そして世界に誇れる最先端の研究を、病院スタッフ一同で推し進めてまいります。

理 念

- 良質で高度な医療を安全に提供する
- 人間性豊かな優れた医療人を育成する
- 先進的な医療の開発と推進に努める
- 地域医療の中核的役割を果たす
- 医療を通じて国際貢献に務める
- 病院で働く全ての人たちの幸福を目指す



私共、秋田大学医学部附属病院の全職員は、本病院の理念に基づき、自らの使命を果たします。

目 標

1. 教育病院として臨床実習・研修の充実を図り、医師のみならず全ての分野に優れた医療人を、地域の医療機関との連携を図りながら育成する。
2. 患者本位の立場に立ち、患者さんとの信頼関係のもとに医療サービスの向上を図り、患者さんに選ばれる病院を目指す。
3. 地域の保健・医療・福祉の状況を総合的に把握し、その向上のために地域医療機関と連携し、一般医療のみならず難病への医療や高度先端医療の提供に努める。
4. 地域的に問題とされる疾患や難治性疾患の病因解明や新しい診断・治療方法の開発、既存の診断・治療方法の科学性、有効性の検証等について研究し、国際的レベルの、独創的研究成果をあげる。
5. 医学・医療の進展に対応して、新しい知識や技術の有用性を適切に判断できるように生涯にわたって学習を継続し、また、広く学際領域の諸科学にも関心をもつよう努力する。
6. 国際情勢にも関心を持ち、高度な医学・医療の知識や技術の導入のみならず、開発途上国に対する国際医療協力なども含めて国際的に活躍できるように努力する。
7. 有限な資源を有効に利用することの重要性を認識し、全職員の病院運営への意識を高め、かつ、職員の創意工夫を取り入れて効率的な管理運営ができるように努力する。
8. 診療情報を積極的に患者さんに提供し、医療提供者と患者さんが診療情報を共有することによって、両者の良好な関係を築き、より質の高い開かれた医療を目指す。
9. 自己点検・評価さらには第三者機関による評価を踏まえて、常に教育、研究、診療の向上や病院の管理運営の改善に努める。
10. 常に自分自身を向上させ、患者さんの信頼を得、明るい、やりがいのある職場の構築に努める。



外来診療日一覽

※A:新患・再来とも8:30～10:30(予約除く) ※B:13:30～16:00

診療受付曜日と受付時間 目的の外来が診療を行っているかどうか不明な場合は、電話で診療科にご確認のうえご来院ください。

令和5年4月現在

診療科	月		火		水		木		金		受付時間
	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	
消化器内科 外来受付 018-884-6357 / 脳神経内科 外来受付 018-884-6369											
消化器内科 (肝・胆・膵)	○	○	—	○	○	○	—	○	○	○	
消化器内科 (胃腸・食道)	○	○	○	○	○	○	○ (FAX予約のみ)	○	○	○	
脳神経内科	○	○	○	○	— (予約のみ)	○ (予約のみ)	— (予約のみ)	○ (予約のみ)	○	○	
循環器内科 外来受付 018-884-6358											
循環器内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
第三内科 外来受付 018-884-6359											
血液内科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	
腎臓内科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	
リウマチ科	○	○	—	○	—	○	○	○	—	○	
老年科 外来受付 018-884-6360											
糖尿病・内分泌内科	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	
糖尿病・内分泌内科 (甲状腺外来)	—	—	—	—	○ (院外からの紹介のみ)	○	—	—	—	—	
老年内科	○	○	○	○	—	○	○	○	○	○	
呼吸器内科 外来受付 018-884-6358											
呼吸器内科	○ (完全予約制)	○	—	○	○ (完全予約制)	○	—	○	—	○	
消化器外科 外来受付 018-884-6364											
消化器外科	○ (予約のみ)	○	—	○	—	○	—	○	○ (予約のみ)	○	
第二外科 外来受付 018-884-6363											
呼吸器外科	—	—	○ (午後予約のみ)	○ (午前中)	—	—	—	—	—	—	
食道外科	—	—	—	—	—	—	○	○	—	—	
乳腺・内分泌外科	○	○	—	—	—	—	—	○	○ (予約のみ)	—	
心臓血管外科 外来受付 018-884-6362											
心臓血管外科	—	—	○ (午後完全予約制)	○	—	○	—	—	—	—	
脳神経外科 外来受付 018-884-6361											
脳神経外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小児外科 外来受付 018-884-6365											
小児外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小児科 外来受付 018-884-6366											
小児科	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	○ (専門外来は予約のみ)	○	
産科 外来受付 018-884-6368 婦人科 外来受付 018-884-6367											
産科 (産科)	○	○	○	○	○	○	—	—	○	○	
産科婦人科 (婦人科腫瘍)	○	○	—	○	○	—	○	○	—	○	
産科婦人科 (生殖内分泌)	—	○	○	○	○	○	○	○	—	—	
精神科 外来受付 018-884-6370											
精神科	○ (予約のみ)	○	○ (予約のみ)	○	○ (予約のみ)	○	○ (予約のみ)	○	○ (予約のみ)	○	
整形外科 外来受付 018-884-6371											
整形外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※A

※A:新患・再来とも8:30～10:30(予約除く) ※B:13:30～16:00

診療受付曜日と受付時間 目的の外来が診療を行っているかどうか不明な場合は、電話で診療科にご確認のうえご来院ください。

令和5年4月現在

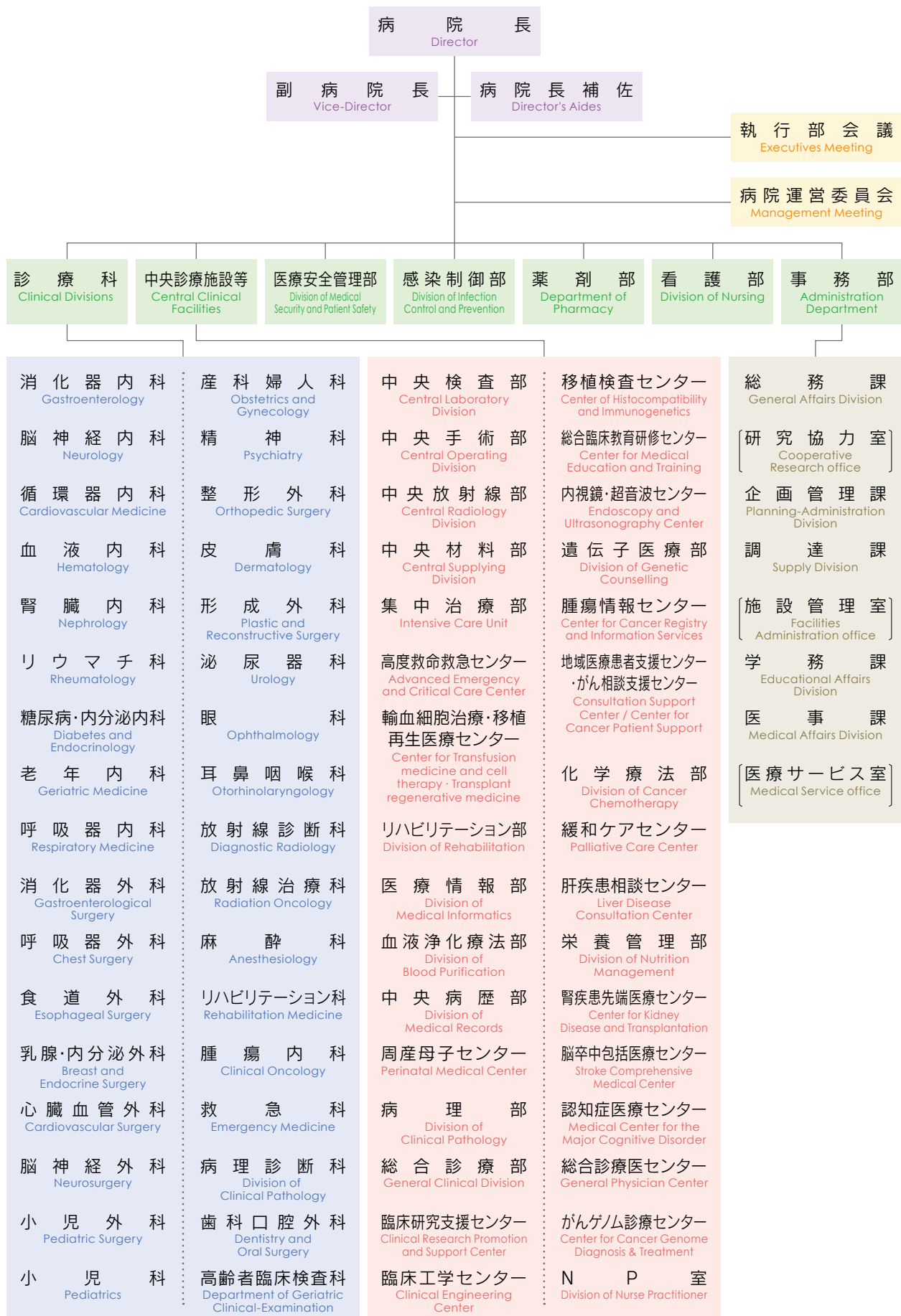
診療科	月		火		水		木		金		受付時間
	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	新患	再来	
皮膚科 外来受付 018-884-6374											
皮膚科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
形成外科 外来受付 018-884-6374											
形成外科	○	○	—	—	○	○	—	—	—	○	
泌尿器科 外来受付 018-884-6375											
泌尿器科 (泌尿器科・血液浄化療法部) (腎移植)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	—	○	—	○	—	○	—	—	—	○ (第2・4金曜)	—
眼科 外来受付 018-884-6376											
眼科	○	○	—	○ (予約のみ)	○	○	—	○ (予約のみ)	○	○	
耳鼻咽喉科 外来受付 018-884-6377											
耳鼻咽喉科	—	○ (予約のみ)	○	○	—	○ (予約のみ)	○	○	○	○	
放射線科 外来受付 018-884-6378											
放射線診断科 (アイソトープ治療)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	○ (午前、予約のみ)	○ (午前、予約のみ)	○ (午前、予約のみ)	—	—	—	—	—	—	—	—
放射線治療科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
麻酔科 外来受付 018-884-6379											
麻酔科(疼痛外来)	—	—	○ (午前、前前麻酔相談のみ)	○ (午前、前前麻酔相談のみ)	○	○	○	○	—	—	
リハビリテーション科 外来受付 018-884-6372											
リハビリテーション科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
腫瘍内科											
腫瘍内科	○ (午後、完全予約制)	○	○ (午後、完全予約制)	○	○ (午後、完全予約制)	○	○ (午後、完全予約制)	○	○ (午後、完全予約制)	○	
病理診断科											
病理診断科	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	○ (午前)	—	—
歯科口腔外科 外来受付 018-884-6380											
歯科口腔外科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
高齢者臨床検査科 外来受付 018-884-6369											
高齢者臨床検査科	—	—	—	—	○ (午前、完全予約制)	○ (午前、予約のみ)	—	—	○ (第4金曜、午後、完全予約制)	○ (第4金曜、午後、予約のみ)	
総合診療部											
総合診療部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
緩和ケア外来 外来受付 018-884-6369											
緩和ケア外来	○ (予約のみ、緩和ケア)	○ (予約のみ)	—	○ (予約のみ)	○ (予約のみ、リハ併用)	○ (予約のみ)	○ (予約のみ、緩和ケア)	○ (予約のみ)	—	—	
漢方外来											
漢方外来	—	—	○	○	—	—	—	—	—	—	

※A

※B

- 休診日…土曜日・日曜日・祝日・年末年始(12月29日～1月3日)
- 診療開始時間は、各診療科の受付に表示してあります。なお、手術及び回診等により変更される場合があります。
- 再来の方には、時間予約制を採用しております。
- 都合により休診となる場合がありますので、お問い合わせください。

組織図



高度救命救急センターの活動実績

秋田県全体の救急医療体制を強化するために2021年4月1日に高度救命救急センターが開設されました。その効果は如実に救急搬送に反映されており、これまで毎年1800件前後であった搬送件数は2022年には2500台以上に急増しています(図1)。ここ数年間のコロナ禍でも高度救命救急センターは秋田県の最後の砦として、受入れ制限することなく、重症対応を続けてきました。

患者のもとへ直接、医師、看護師、救急救命士が急行する緊急自動車「ドクターカー」事業も2021年8月から本格運用しています。ドクターカーとは、診療を行う医師を派遣するための緊急走行が可能な車両を意味します。ランデブーポイント(救急車との合流地点)として秋田自動車道のサービスエリアやコンビニ各社と提携を結んでいます(図2)。さらに市役所、公園、スキー場、スケート場などとも連携ができています。2022年7月からは秋田県内すべての消防本部と提携を結び、今やドクターカーは全県を網羅する体制も整いました。当センターのドクターカー事業において、輸血細胞治療・移植再生医療センターの協力のもと、輸血を病院前治療として行っていることも特徴の一つです。出血性ショックの患者には輸血は必須の治療であり、救命率向上の一助となるものと期待しています。



図3. 高度救命救急センターのスタッフ
高度救命救急センターでは看護部門も独立し、病院救急救命士も活動しています。

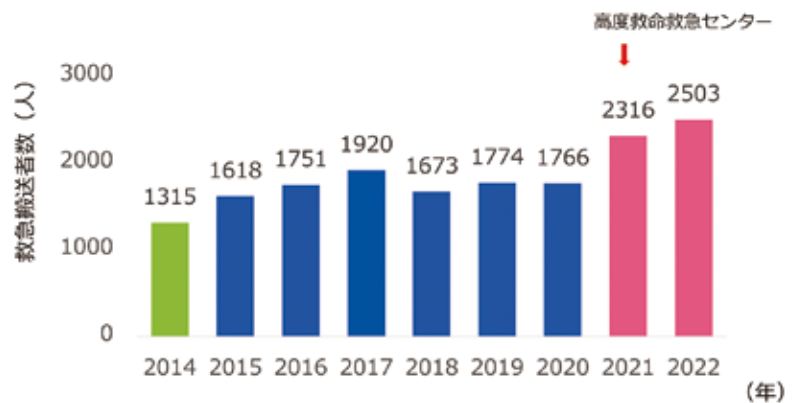


図1. 高度救命救急センターの救急搬送数の推移
2021年4月の高度救命救急センター設立以降、救急搬送症例は増多の一途をたどっています。



図2. ドクターカー協力施設の表示
ランデブーポイントとなる協力施設にはポスターを提示して、県民の皆様の協力とご理解をお願いしています。

次世代のリードレスペースメーカー

循環器内科

【ペースメーカーとは】

ペースメーカーは、徐脈性不整脈に対する治療機器です。心臓を24時間監視しながら、必要に応じて電気を送り、心臓の脈拍を調整します。ジェネレータ本体とリード線からなり、胸の皮膚を4cm程度切開し、リード線は鎖骨下静脈を通して心臓内に留置されます。ペースメーカーには、心房と心室の両方を監視して電気を発するデュアルチャンバー型と、どちらか一方を監視して電気を発するシングルチャンバー型があります。

頻度は少ないですが、リード線を心臓に留置する際の合併症や術後のリード感染が起こることがあります。

【リードレスペースメーカー(LP)とは】

LPは、心室でのペーシングのみを必要とする患者さん向けのシングルチャンバー型のペースメーカーで、リード線がありません。2017年9月に日本で使用可能となり、すでに2万人の方に植込まれています。従来型のペースメーカーの10分の1を下回るサイズでカプセル型です。右鼠径部の静脈からカテーテルを用いて直接心臓内にLPを運び、小さなフックで心室壁に取り付け、先端電極を通じて心臓の脈拍を調整します。低侵襲のため、高齢者で、従来のペースメーカーでは手術が難しい場合に代替えとして使用されることが多いです。

2022年からは新しいLPが使用できるようになりました。心房に同期して右室ペーシングを行うことができるようになり、より自然に近い、生理的なペースメーカーとなりました。植込み手術は、不整脈デバイス治療に関する専門的な知識と経験を持った医師によって行われます。当院では資格をもった医師が現在5人在籍しており、新しいタイプのLPの植込み手術が増えています。



図1. 従来型とリードレス型のペースメーカー

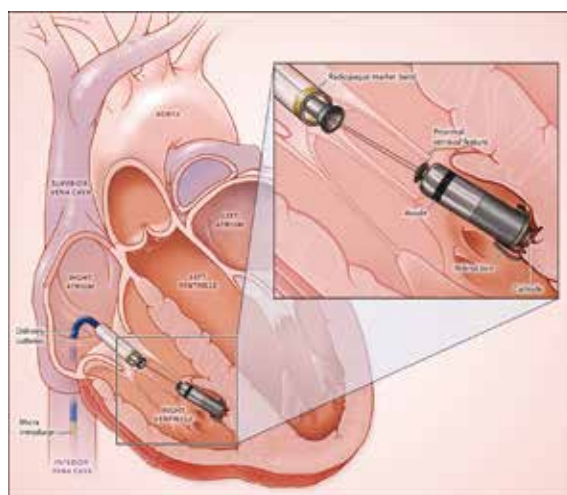


図2. LPを心室に留置(NEJM 2016; 374:533-41)

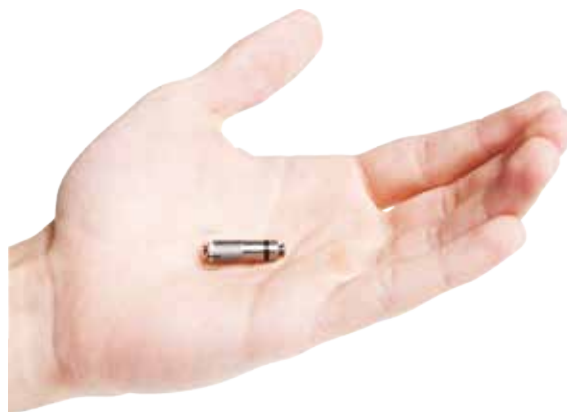


図3. カプセル型のリードレスペースメーカー

消化器内科／脳神経内科

Gastroenterology and Neurology



連絡先

- 018-884-6357 (消化器内科外来) ●018-884-6369 (脳神経内科外来)
- 018-884-6104 (医局) ●018-836-2611 (FAX)

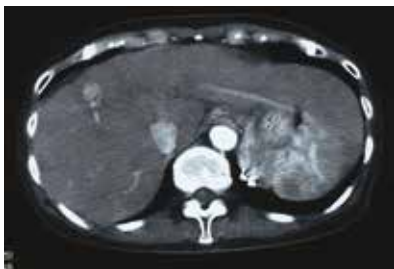
<https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika/>

最新の治療と診断を行っています。

消化器内科(胃腸・食道分野)では、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸の消化管領域の急性期疾患、腫瘍性疾患、炎症性腸疾患などを対象とした診断・治療を行っています。特に最新の高解像診断装置により粘膜表面の微細構造や微細血管の観察から早期癌の内視鏡的治療前診断を行った上で、内視鏡的粘膜下層切開剥離術を用いた治療を積極的に行っております。粘膜下腫瘍の内視鏡下切開生検も行っております。すべての治療症例において週一回他科との合同Cancer Board開催、自科カンファレンスを行い、各診療科との協力連携の下、総合的な診断と治療方針決定を行っております。また、先進医療や臨床試験・治験にも取り組んでおります。

消化器内科(肝・胆・膵分野)の臨床では、肝疾患診療連携拠点病院として最新のウイルス性肝疾患(B型肝炎・C型肝炎)に対する抗ウイルス治療を行っています。肝癌の治療では経皮的ラジオ波焼灼療法と肝動脈塞栓療法を組み合わせることで、良好な治療成績を上げております。診断困難な胆管がんや膵癌に対し超音波内視鏡検査、管腔内超音波検査、超音波内視鏡下穿刺吸引術、内視鏡的逆行性胆管膵管造影検査などを駆使し、早期診断に努めています。食道・胃静脈瘤に対する内視鏡的治療(硬化療法・結紮術)や胃前庭部毛細血管拡張症に対する内視鏡的アルゴンプラズマ凝固法により肝硬変患者の消化管出血予防を行っています。

脳神経内科の臨床では、中枢神経感染症、脳血管障害、痴呆性疾患、パーキンソン病、脊髄小脳変性症、運動ニューロン病、神経免疫疾患など多岐にわたる疾患の外来診療・救急も含めた入院診療を行なっています。県内各地の病院で外来診療を行い神経難病の診断・治療・療養支援を行っており、治療困難例を積極的に受け入れています。外来では、眼瞼けいれん・片側顔面けいれん・痙性斜頸に対するボツリヌス(ボトックス)治療も行っていきます。



RFA治療前



RFA治療後



下咽頭癌へのELPS



診療科長／教授

飯島 克則

Katsunori Iijima

メッセージ

日常の患者様への診療を大切に、当科を受診されたすべての患者様にとって、常に最善の治療が得られるよう心がけます。そのなかで、臨床的に未解決の問題を抽出し、それを解決するための臨床研究、基礎研究を進め、秋田からきらりと光る独創的な研究成果を世界に向けて発信していきたいと思えます。教室は開放的な雰囲気大切に、私自身は、Servant leaderとして、教室員すべての活躍を後押ししたいと思います。

以下に当教室(消化器内科・脳神経内科)の基本理念を示します。

- ① 患者さんに優しくする。
- ② 臨床の知識・技術を若手医師に伝えていく。
- ③ 日頃の診療から臨床的課題を抽出して、その解決に向けて研究する。
- ④ その研究成果を世界に発信する。

循環器内科

Cardiovascular Medicine



連絡先

●018-884-6110 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika2/>

循環器疾患について、高い専門性を生かした
良質な医療を提供しています。

【診療科の概要】

特定機能大学病院の循環器内科診療部門として虚血性心疾患、不整脈、心臓弁膜症、心筋症、心不全などの疾患に対して、高い専門性を生かした高度・最先端の医療を行っています。

【取り扱うおもな疾患】

虚血性心疾患…急性冠症候群、狭心症
弁 膜 症…大動脈弁狭窄症・閉鎖不全症、僧帽弁狭窄症・閉鎖不全症
不 整 脈…心房細動・粗動、上室性頻拍、心室頻拍・細動、徐脈性不整脈
そ の 他…心筋症、肺血栓塞栓症、肺高血圧症、大動脈解離、末梢動脈疾患、
大型血管炎、家族性高コレステロール血症、生活習慣病(高血圧、
脂質異常症など)

【主な診断・治療法】

診断…心エコー、心臓核医学検査、冠動脈造影、心臓CT・MRI、心肺運動負荷試験
治療…経皮的冠動脈形成術、高周波カテーテル心筋焼灼術、冷凍カテーテル心筋
焼灼術、ペースメーカー・ICD移植術、心臓再同期療法、経皮的冠動脈形成
術、経皮的僧帽弁クリップ術、経カテーテル大動脈弁植え込み術、下大静
脈フィルター留置術、心臓リハビリテーション

【高度な先進技術】

「新規超音波技術の大型血管炎活動性評価への応用」
「末梢動脈疾患患者における末梢微小血流の評価」
「カテーテルアブレーションのデバイス間の有効性比較」
「心臓MRIT1マッピングを用いた腎不全患者予後予測因子の確立」
「心アミロイドーシス患者における心臓MRIストレイン解析」
「Superb microvascular imaging (SMI) の心不全時組織灌流評価への応用」
etc.

【診療科における研究テーマ】

「心臓リハビリテーション困難患者に対する新規非薬物心不全治療」
「腎移植後心機能改善の機序解明と尿毒症性心筋症治療への応用」
「冠微小循環の生理的反応の解析」
「心電図P波異常と脳塞栓および心房細動との関連性の解明」
「SGLT2阻害薬と交感神経機能」
「心電図非同期CTでの冠動脈石灰化と心血管予後との関連の解析」
「経カテーテル大動脈弁置換術患者における非重症弁周囲逆流の臨床的意義」
「大動脈弁狭窄症患者におけるCardio-Ankle Vascular Index (CAVI) の検討」
etc.



診療科長／教授
渡 邊 博 之
Hiroyuki Watanabe

メッセージ

当診療科では大学病院として、患者さんやご家族の希望にこたえるべく、最新の高度医療を提供するよう努めています。そのためにも、各疾患の基礎的病態を理解し、実証的根拠に基づいた最先端の診断・治療を行うスタッフを育成しています。また県内各地の関連病院との連携を充実させ、24時間いつでも重症疾患に迅速に対応する体制を整えています。

これからも、秋田県の地域医療の振興と世界に発信できるハイレベルな臨床・研究を行うとともに、その次世代の担い手を育てていきたいと考えております。

血液内科／腎臓内科／リウマチ科

Hematology / Nephrology / Rheumatology



連絡先

●018-884-6359(外来) ●018-884-6116(医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~naika3/>

白血病や腎臓／膠原病などの難病に造血幹細胞移植を含む最先端の治療を提供します。

【診療科の概要】

血液・腎臓・リウマチ専門医に加え、総合内科専門医資格を取得した医師が広範な内科学の知識と造血幹細胞移植750件・腎生検10,000件を超える実績に基づくテーラーメイド医療を実践します。

【取り扱うおもな疾患】

血液内科:白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群といった造血器腫瘍から貧血・血小板減少を示す難治性血液疾患を治療します。

腎臓内科:末期腎不全(ESRD; end stage renal disease)に至らないように慢性腎炎、ネフローゼ症候群を対象として治療を行います。

リウマチ科:関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、強皮症、皮膚筋炎・多発性筋炎、混合性結合組織病、血管炎症候群、シェーグレン症候群など多彩な症状を呈する特定疾患や難病を担当しています。

【主な診断・治療法】

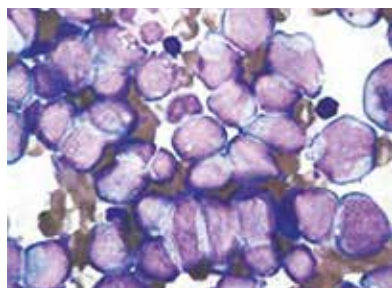
血液内科では骨髄穿刺標本やリンパ節生検標本に加え、染色体・遺伝子検査結果を総合的に検討し治療方針を決定します。腎臓内科では蛍光免疫染色や電子顕微鏡検査を含む腎生検標本を基に治療オプションを立案します。2-8病棟の10床の無菌室と8床の準無菌室を必要に応じて使いながら、安全に化学療法や免疫抑制療法を行います。

【高度な先進技術】

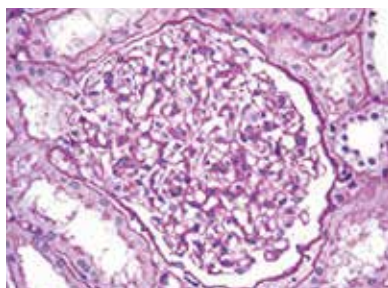
造血器腫瘍、難治性血液疾患に対して、1983年より造血幹細胞移植を導入し、現在は臍帯血移植、血縁者間HLA半合致移植なども行っております。また、国内外で行われる開発臨床試験や医師主導臨床研究に積極的に参加し、日本最先端の治療を提供します。

【診療科における研究テーマ】

白血病の多施設共同研究、分子標的薬の薬理学的研究、多発性骨髄腫やリンパ腫瘍の発がん機構の研究、赤芽球造血の研究、IgA腎炎の臨床病理学的研究、リウマチ系疾患の分子遺伝学的研究など



2022年12月で739件の移植件数



2022年12月で10,183件の腎生検数



診療科長／教授

高橋 直人

Naoto Takahashi

メッセージ

1975年の開講以来、第三内科の分野は診断から治療まで一貫して内科医が関わる必要のある分野であり、広い分野の知識と全身管理の技術が必要です。内科領域の専門化が進む中で、総合的な視点から診療を行なうことの重要性が見直される中、私達は、それぞれの専門性を生かしつつ、同時に総合的な内科医を目指し医療に貢献してきました。また、トランスレーショナルリサーチの最先端を走る分野であり、臨床と研究のどちらにも精通する必要があります。医育・研究機関としての使命のもと、これからも最先端の治療と世界レベルの研究を発信しつづけていきたいと考えております。国内でも歴史ある造血幹細胞移植の経験と圧倒的な腎生検数の実績に基づく治療をご提案いたします。

糖尿病・内分泌内科／老年内科

Diabetes and Endocrinology / Geriatric Medicine



連絡先

●018-884-6360 (外来) ●018-884-6769 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~rounen/>

糖尿病、肥満症、甲状腺疾患などに対し、最新の治療を行っています。

【診療科の概要】

当科は糖尿病・代謝・内分泌疾患と老年疾患の診療を行っています。糖尿病や肥満症に関しては患者さんが自分に適した治療を実践していけるように、多くの職種や診療科と連携し、全人的な医療を実践しています。内分泌疾患に関しては甲状腺、副腎、下垂体など内分泌疾患全般の診療を行っており、特に甲状腺疾患については初診時全例に超音波を施行し、腫瘍性疾患では穿刺吸引細胞診も実施しています。原発性アルドステロン症では、放射線科と協力し静脈サンプリングで局在診断を行っています。老年疾患では、認知機能と併せて、ADL・フレイルなどを評価するため、専門外来を設置し、健康寿命の確保に努めています。

【取り扱う主な疾患】

代謝疾患:糖尿病、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症、高尿酸血症など

甲状腺疾患:バセドウ病、慢性甲状腺炎、甲状腺腫瘍など

下垂体疾患:下垂体機能低下症、先端巨大症、クッシング病など

副腎疾患:原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫など

【主な診断・治療法】

糖尿病では、血糖値・HbA1c測定、75g経口糖負荷試験、インスリン分泌能のほか、経過や合併症、併存症を含めて総合的に病態を評価します。治療は運動・食事療法に加えて必要であれば経口血糖降下薬、インスリン、GLP-1受容体作動薬などの注射製剤を個々の患者さんに合わせて使用します。

【高度な先進技術】

持続的なインスリン注射が可能な持続皮下インスリン注入器(インスリンポンプ)と持続グルコースモニタリングを組み合わせたSAPや間歇スキャン式持続グルコースモニタリングを当院では使用できます。これらの技術では、日中の血糖変動を連続して把握し、インスリンを柔軟に調整することで、より良好な血糖コントロールを達成できます。

【診療科における研究テーマ】

脂肪組織、腸管インクレチン、糖尿病性腎症、サルコペニアなど多臓器連関のメカニズムに基づいた肥満・2型糖尿病の研究を展開しています。



頸部エコー検査



CSII。トランスミッタと通信しSAPとしても使用できる。



診療科長／教授

脇 裕典

Hironori Waki

メッセージ

生活習慣の変化や高齢化を背景に患者数が増加し続けています。糖尿病は初期には症状がありませんが、病状が進行すると眼・腎臓・末梢神経・脳梗塞・心筋梗塞・歯周病・がん・サルコペニアなど全身の臓器の合併症や併存症の発症に深く関わります。糖尿病治療の目標はこれらの合併症や併存症の発症や進展を防ぎ、糖尿病がない人と変わらない生活を確保することです。そのためには、血糖、血圧、脂質代謝、体重、禁煙などを適切にコントロールすることが重要です。すべての患者さんがその人に適した治療を実践していけるように、看護師、管理栄養士、薬剤師、ソーシャルワーカーなど多くの職種や他の診療科と連携しながら、最新の治療法やエビデンスに基づいて、全人的な医療を実践しています。

呼吸器内科

Respiratory Medicine



連絡先

●018-801-7510(医局) ●018-884-6358(外来)

<https://kokyuuki59.med.akita-u.ac.jp>

呼吸器疾患について、高い専門性を生かした医療を行っています。

【診療科の概要】

特定機能病院の呼吸器内科診療部門として肺癌、感染症(重症肺炎など)、間質性肺炎、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、喘息などの疾患に対して、高い専門性を生かした最先端の医療を行っています。

【取り扱う主な疾患】

COPD(慢性閉塞性肺疾患)、気管支喘息、呼吸器感染症、間質性肺炎、肺癌、自然気胸、サルコイドーシス、肺動静脈奇形、びまん性肺疾患(過敏性肺臓炎、肺胞蛋白症、好酸球性肺炎など)

【主な診断・治療法】

超音波気管支鏡を用いた気管支鏡検査(下図)、気管支充填術、気管支動脈塞栓術、精密肺機能検査、呼吸リハビリテーション、禁煙治療

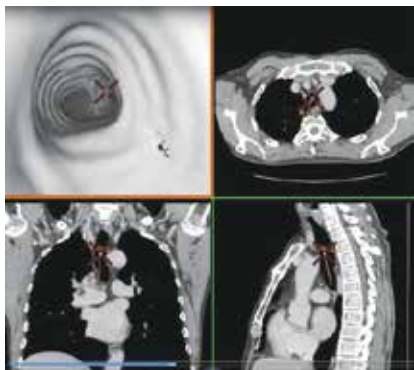
【高度な先進技術】

間質性肺炎重症度評価における経胸壁肺エコー検査:CT検査に比べ簡便である経胸壁エコー検査を用い、間質性肺炎の重症度評価を行っています。

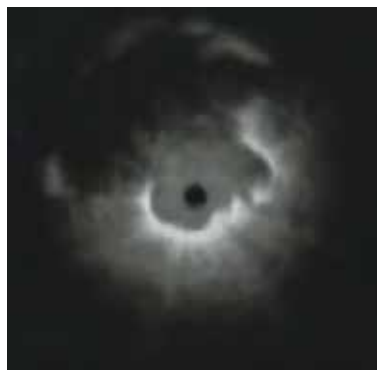
非小細胞肺癌治療におけるEGFRチロシキナーゼ阻害薬血中濃度モニタリング下の治療:特定のEGFR遺伝子変異患者では、EGFRチロシキナーゼ阻害薬の血中濃度が低い場合に無増悪生存が短縮する可能性があり、血中濃度をモニタリングし治療方針を決定しています。

【診療科における研究テーマ】

血管内前駆細胞をマーカーとした肺癌のテーラーメイド治療の開発
薬物血中濃度に影響する遺伝子多型を標的とした肺癌の個別化医療
COPDの身体活動性向上における運動療法とマイオカインの役割



仮想気管支内視鏡



超音波気管支鏡検査



診療科長/教授

中山 勝敏

Katsutoshi Nakayama

メッセージ

当科は、重症肺炎(感染症)や喘息(アレルギー性疾患)、慢性閉塞性肺疾患(喫煙関連)、特発性間質性肺炎(原因不明)、肺癌(悪性疾患)など幅広い領域を担当します。また呼吸・全身管理が必要な病態も多く、医療機関では要となる診療科です。その全てに精通し、先進かつ良質の医療を提供できるよう、知識と技量を磨き、若手医師の育成、地域医療への貢献に努めてまいります。さらに新規の診断・治療に資する研究を推進し、世界に発信していきたいと思っております。

消化器外科

Gastroenterological Surgery



連絡先

●018-884-6364 (外来) ●018-884-6126 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~geka1/>

腹部消化器がんに対して高度な最新外科治療を積極的にを行っています。

【診療科の概要】

当科は消化器系の診療を中心に行っており、常に最先端の医療を患者さんに提供できるよう診療、研究にあたっています。特に、消化器がん(胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆道がん・膵臓がん)に対する治療に力を注いでいます。消化管に対する手術は、根治性を保ちつつ体への負担を減らすため、傷の小さな腹腔鏡下手術を第一選択としています。高難度肝胆膵手術は、3D-CTによる術前シミュレーションや予定残肝・残膵機能評価、さらにはがん進展範囲の正確な把握を行うことによって安全性と根治性を追求することにこだわっています。

【取り扱うおもな疾患】

胃がん・大腸がん・原発性および転移性肝がん・胆道がん・膵がんなどの腹部消化器系のがん、鼠径ヘルニア・虫垂炎・胆石症・潰瘍性大腸炎などの良性疾患。

【主な診断・治療法】

高難度肝胆膵外科手術、腹腔鏡下胃悪性腫瘍手術、腹腔鏡下大腸悪性腫瘍手術、腹腔鏡下大腸全摘術および回腸囊肛門吻合術、腹腔鏡下肝切除術、腹腔鏡下膵切除術、腹腔鏡下胆嚢摘出術。

【高度な先進技術】

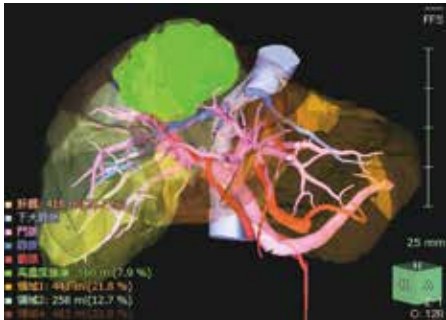
残肝体積増加促進を目的とした計画的二期的肝切除ALPPS手術。

【診療科における研究テーマ】

膵切除後の膵液漏重症化予測、肝切除後ドレーン留置必要性の検討

【その他】

外科的治療のみならず、手術以外の治療法(抗がん剤や放射線治療)などを組み合わせることによって、少しでも根治性が向上できないか、患者さん一人一人について消化器内科、腫瘍内科、放射線科、病理医と毎週のカンファレンスで徹底的に議論しています。



3D-CTによる肝切除シミュレーション



完全腹腔鏡下胃切除後の傷跡



診療科長／教授

有田 淳一

junichi Arita

メッセージ

当科は消化器系の診療を中心に行っており、常に最先端の医療を患者さんに提供できるよう診療、研究にあたっています。特に、消化器がん(胃がん・大腸がん・肝臓がん・胆道がん・膵臓がん)に対する治療に力を注いでいます。胃がんと大腸がんに対しては腹腔鏡を用いた侵襲の少ない手術を、肝胆膵領域の悪性腫瘍に対しては日本肝胆膵外科学会高度技能専門医修練施設として根治性の高い手術を行うのみならず、標準治療では対応できない症例に対しても、血行再建など高度技術を駆使し、がんの取り残しのない手術を安全に行うよう努めています。他院で切除不可能と診断された場合でも当科へ気軽にご相談ください。

呼吸器外科／食道外科／乳腺・内分泌外科

Chest Surgery / Esophageal Surgery / Breast and Endocrine Surgery



連絡先

●018-884-6363 (外来) ●018-884-6132 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~geka2/>

肺癌・食道癌・乳癌・甲状腺癌に対して
最新の外科治療を行っています。

【診療科の概要】

呼吸器、食道、乳腺、甲状腺の病気の外科的治療を行っています。

【取り扱うおもな疾患】

肺癌、転移性肺腫瘍、縦隔腫瘍、自然気胸、食道癌、食道アカラシア、乳癌、甲状腺癌など

【主な診断・治療法】

呼吸器外科は、肺癌や転移性肺腫瘍などの腫瘍性疾患の外科的治療を中心とし、早期肺癌に対する胸腔鏡手術や区域切除などの低侵襲手術も積極的に行っています。

食道外科は、食道癌を中心とした食道疾患全般に対する外科治療を行っています。胸腔鏡下食道切除、術前化学放射線療法、根治的放射線治療後のサルベージ手術も導入しています。

乳腺・内分泌外科は、乳癌を中心とした乳腺疾患と甲状腺、副甲状腺などの内分泌臓器の外科治療を行っています。乳癌のセンチネルリンパ節生検による腋窩リンパ節郭清の省略化を導入しています。

【高度な先進技術】

現時点では食道癌、肺癌、縦隔腫瘍の手術にdaVinci手術システムによるロボット支援手術を導入しています。

【診療科における研究テーマ】

- ・当科で開発した迅速免疫染色技術の多疾患での臨床応用
- ・肺癌におけるリンパ節転移メカニズムの研究
- ・食道癌における化学放射線療法感受性マーカーの研究
- ・食道癌におけるTLRを介したウイルス感染の影響に関する研究
- ・術前口腔機能評価と食道癌術後の肺炎合併率に関する研究
- ・高分子ゲルを用いた新規定量陽性コントロールの開発

2022年手術件数

呼吸器外科		食道外科		乳腺・甲状腺外科	
肺癌	89件(14件)	食道癌	25件	乳癌	87件
転移性肺腫瘍	30件	アカラシア	3件	甲状腺癌	12件
縦隔腫瘍	14件(8件)	ロボット手術	3件	センチネルリンパ節生検	72件
その他	32件	その他	23件	その他	30件

()内はロボット手術件数で内数



診療科長／教授

南谷 佳弘

Yoshihiro Minamiya

メッセージ

当科では秋田大学医学部胸部外科学教室に所属する各領域の専門医が専門性の高い診療を行っています。また「負担の少ない外科治療」から「進行してしまった難治性の疾患に対する外科治療」を幅広く行っています。当教室から秋田県内の主要中核病院当該外科(関連病院)に専門医を多数派遣しています。高度な医療を必要とする場合は関連病院から当科に紹介されることも多いです。また重症度によっては関連病院での治療をお勧めする場合があります。必要な場合は当院の専門医が指導に行っておりますので、安心して治療をお受けください。

心臓血管外科

Cardiovascular Surgery



連絡先

●018-884-6362 (外来) ●018-884-6135 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~sinzou/>

心臓血管外科は、治療を必要とする患者さんに対して、24時間365日、最善の医療を提供します。

【診療科の概要】

心臓血管外科は、1)心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、2)僧帽弁や大動脈弁などの心臓弁膜症、3)大動脈瘤や大動脈解離など大血管疾患、4)先天性心疾患、5)重症心不全への補助心臓など、6)心房細動などの不整脈治療、7)動脈硬化などによる末梢血管疾患に関して臨床、研究、教育を行う部門です。

当科の陣容は、教授1名、准教授1名、講師1名、助教2名、医員4名で、秋田県内の心臓血管外科治療の中核を担い、日本でもトップクラスの成績で心臓血管外科医療を提供しております。

【取り扱うおもな疾患】

虚血性心疾患:狭心症、心筋梗塞、川崎病など
心臓弁膜症:僧帽弁疾患、大動脈弁疾患、感染性心内膜炎など
大動脈疾患:動脈瘤、大動脈解離、外傷性大動脈損傷
先天性心疾患:新生児から成人まで
重症心不全:特発性拡張型心筋症など
不整脈:心房細動など
末梢血管疾患:閉塞性動脈硬化症、急性動脈閉塞、下肢静脈瘤

【主な診断・治療法】

虚血性心疾患:冠動脈バイパス術 主にオフポンプ心拍動下手術
心臓弁膜症:弁形成術、人工弁置換術
大動脈疾患:人工血管置換術、ステントグラフト内挿術
先天性心疾患:開心術・非開心術、姑息・根治手術
重症心不全:補助心臓、補助循環装置など
不整脈:メイズ手術や左心耳切除など
末梢血管疾患:下肢血行再建術(バイパス手術、経皮的血蓄形成術)

【高度な先進技術】

- 急性大動脈解離に対するオープンステントグラフトを用いた弓部置換術及び胸部大動脈ステントグラフト内挿術
- 重症心不全に対する外科治療、補助人工心臓

【診療科における研究テーマ】

心臓手術では、人工心肺装置で全身の循環を維持しながら心臓を停止させて心臓内部の手術操作を行います。この心停止によって生じる心筋細胞へのダメージを最小限とするべく、心筋細胞保護方法の研究を行っています。大動脈解離に対するステントグラフト治療の有効な治療方法や、術後のリハビリの有効性などを明らかにすべく、臨床研究を行っています。



心臓血管外科ロゴマーク



留学生・医学生との交流



診療科長/教授

中嶋 博之

Hiroyuki Nakajima

メッセージ

秋田大学心臓血管外科では、“地方でも世界レベルの医療を提供できること”をスローガンとして、秋田県内の心臓血管外科医療の中核を担っております。診療内容は、小児の複雑心奇形や虚血性心疾患、心臓弁膜症、胸部や腹部大動脈瘤、末梢血管手術など多岐にわたっています。特に、緊急を要する大動脈解離や心筋梗塞などの救急症例に対しては、24時間365日いつでも対応できるよう努めています。また、患者さんの体への負担を最小限とするべく、“低侵襲心臓手術”や“血管内治療”を積極的取り入れて、個々の患者さんの体力や希望を考慮した最善の治療法を提供しております。特に、秋田県に多くみられる大動脈疾患については、開胸手術に加えてステントグラフトなど最新の治療法を取り入れることにより、長期的にも良好な治療成績を収めています。これからも、県民の皆様安心して暮らしていただけるよう体制を整えてまいります。

脳神経外科

Neurosurgery



連絡先

●018-884-6140(医局) ●018-836-2616(医局FAX)

https://www.med.akita-u.ac.jp/~noushin/

脳腫瘍、脳卒中を中心に脳神経疾患全般について
診断から治療(手術、薬物)まで行います。

【診療科の概要】

脳神経外科が担当する疾患は多岐にわたり、治療法も外科手術をはじめとして、血管内治療、定位放射線治療、薬物療法も行います。患者さんごとに最善の治療を実施することを心がけています。

【取り扱う主な疾患】

脳腫瘍: 神経膠腫、髄膜腫、聴神経腫瘍、下垂体腺腫、他。
脳血管障害(脳卒中): 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、脳動脈瘤、頸部頸動脈狭窄症、モヤモヤ病、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻、他。
頭部外傷、三叉神経痛、顔面けいれん、脊髄脊椎疾患、てんかん、他。

【主な診断・治療法】

CT、MRI、PET、SPECT、脳血管撮影などで病気ごとに必要な検査、診断を行い、外科手術・血管内手術・薬物療法などを総合的に組み合わせて治療します。初診から入院、退院後の外来までカバーします。検査も治療も、必要性和患者さんの身体的負担などに応じて、最善の方法を選択しています。

【高度な先進技術】

秋田大学で開発された術中迅速免疫診断を用いた脳腫瘍の最先端診断技術を実施しています。

これまで秋田県に少なかった脳血管内治療医を重点的に育成し、開頭手術とのバランスのよい役割分担を心掛けています。

H30年5月から脳卒中包括医療センターが設立され、神経内科医による内科的診断・治療を含め脳卒中医療の充実と後進育成を行う体制となりました。脳外科・神経内科に関わらず脳神経診療に携わる医師を受け入れています。

【診療科における研究テーマ】

脳腫瘍については、世界最先端の業績をもつHeiderberg大学との分子生物学的診断に関する共同研究を続けています。上記の術中迅速免疫診断に関する全国多施設共同研究を主催しています。

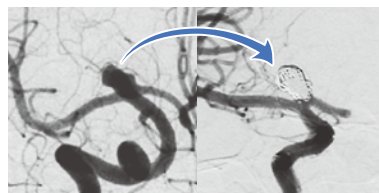
脳血管障害については、慢性脳低灌流に伴う様々な病態解析に関する基礎的研究に取り組んでいます。

【その他】

秋田大学や県内の脳外科、神経内科、神経系基礎研究室、神経放射線、神経病理などの関係者が協力し、月に一回、脳神経セミナーを開催しています。研修医や学生、さらには県内の救急隊も参加し、よいコミュニケーションの場ともなっています。



脳動脈瘤クリッピング術



脳動脈瘤血管内コイル塞栓術



診療科長/教授

清水 宏明

Hiroaki Shimizu

メッセージ

脳腫瘍は全県から患者さんが紹介され、手術は90件ほど行っています。さらに放射線、薬物療法を取り入れて、治療しています。

救急部と連携し脳卒中救急患者を積極的に受け入れています。とくに、脳梗塞治療の最先端である血栓回収療法を行う血管内専門医が常在する数少ない施設です。くも膜下出血・脳動脈瘤に対しても、クリッピング術や血管内コイル塞栓術を年間50例ほど行っています。治療困難な動脈瘤も多数紹介されてきます。頸部頸動脈狭窄症は循環器内科と連携し治療しています。

後遺症にはリハビリ科でロボットリハなど最先端治療を行います。

顔の激痛を生じる三叉神経痛、片側顔面けいれんなども手術が効果的なことが少なくありません。さらに日本の脳神経外科は、手術だけでなく薬物療法、リハビリなどにも携わり、多様なキャリアパスの中から個人の希望に応じたものを選択できることが特徴です。脳神経系に興味ある方は是非ご相談ください。

小児外科

Pediatric Surgery



連絡先

●018-884-6365 (小児外科外来) ●018-884-6143 (小児外科医局)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/pediatric_surgery.html

日本小児外科学会認定指導医、専門医による
高度の医療を提供します。

【診療科の概要】

小児外科疾患に対する高度の医療を提供できる専門施設として、現在、全国でおよそ90施設が小児外科学会から認定されています。

当診療科は秋田県では唯一の日本小児外科学会の認定施設(小児外科専門医の研修指定病院)であり、県内外の小児外科疾患を持つ患者さんに高度で質の高い医療を提供しています。

【取り扱うおもな疾患】

対象疾患は新生児外科疾患(先天性食道閉鎖症、先天性横隔膜ヘルニア、先天性腸閉鎖、壊死性腸炎、腸回転異常、鎖肛、腹壁異常、ヒルシュスブルング病など)、小児悪性固形腫瘍(神経芽細胞腫、腎芽腫、肝芽腫、胚細胞腫瘍など)、胆道疾患(胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症など)、日常疾患(乳児肥厚性幽門狭窄、腸重積症、虫垂炎、鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、体表の腫瘍や先天性瘻孔、便秘、肛門疾患)、停留精巣や漏斗胸などの広範囲に及んでいます。また、重症心身障がい児の患者さんに対する、胃食道逆流防止術、胃瘻造設術、気管切開、喉頭気管分離術なども施行しています。更に近年は、低侵襲な小児内視鏡下手術も導入しております。

新生児外科疾患(外科的先天異常)は近年、出生前診断症例が増加しており、産科、小児外科、新生児科と連携して治療することが多くなっています。また、壊死性腸炎などの1,000g未満の超低出生体重児に対する外科治療も行っています。

小児悪性固形腫瘍に対しては日本全国統一プロトコールに沿って小児科、放射線科、および小児外科による集学的治療を行っています。なお、小児外科診療の特徴である長期経過観察を必要とする患者さんを対象に生体肝移植後管理、在宅静脈栄養(HPN)などの特殊外来を設けています。

【診療科における研究テーマ】

1. 胆道閉鎖症の病因、病態に関する基礎研究
2. 肝機能障害を伴う腸管不全症例に対する ω 3系脂肪製剤による治療
3. 小児短腸症候群の病態解析と治療
4. 小児に対する低侵襲手術の開発



診療科長／病院教授

水野 大

Masaru Mizuno

メッセージ

“小児外科”では主に新生児から15歳未満までの外科疾患の診療を行っています。(成人であっても小児に特有な外科疾患について診療しています。)対象疾患は鼠径(そけい)ヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣、虫垂炎など、日常よく見られる疾患から、新生児外科疾患、小児がん、小児呼吸器外科疾患など広範囲に及んでいます。出生前診断例、新生児外科疾患は、産科、小児科と密接に連携し、主に新生児集中治療室(NICU)で、乳児以上の外科疾患は小児専門病棟で診療を行います。

「こどもがおとなのミニチュアではない」と言われるように小児は大人に比べ単にからだ小さくだけでなく、身体、精神とも成長過程にあります。当科ではこのような小児の特徴を理解した専門医による、発育、成長を配慮した、こどもにやさしい医療を心がけています。

小児科

Pediatrics



連絡先

●018-884-6366(小児科外来) ●018-884-6159(医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~syouni/>

「こどもの総合診療科」として専門性の高い医療を
安心できる環境のなかで提供します。

【診療科の概要】

「小児疾患の総合医療」を目指し、新生児、総合(神経・内分泌・代謝・消化器・腎)、循環器、血液・腫瘍の4グループで診療を行っています。診療科長の指導のもと、各グループが経験・実績と最新知見をふまえ、皆様に安心して頂ける医療を提供します。

【取り扱うおもな疾患】

極・超を含む低出生体重児、新生児仮死、小児外科疾患・脳神経外科疾患などの先天異常を有する児、神経・筋疾患、先天代謝異常症、腎疾患(難治性ネフローゼを含む)、夜尿症、尿路疾患、肝炎、炎症性腸疾患、内分泌疾患(成長障害、思春期異常、他)、1型糖尿病、先天性心疾患、川崎病(急性期及び心後遺症)、心筋症、心筋炎、不整脈、自律神経機能異常、小児がん(白血病、リンパ腫、神経芽腫、腎芽腫、肝腫瘍、横紋筋肉腫、骨腫瘍、脳腫瘍、他)、血液疾患、免疫不全症など

【主な診断・治療法】

人工呼吸器管理、脳波検査、腎生検、筋生検、内分泌負荷試験、代謝異常疾患診断、肝生検、心エコー検査(胎児及び経食道心エコー検査)、心臓カテーテル・心血管造影検査、各種負荷試験(運動、薬剤)、MRI検査、CT検査、核医学検査、ホルモン補充療法、骨髄穿刺・生検、化学療法、造血幹細胞移植術、インスリン療法(持続皮下インスリン注入療法・SAP療法を含む)など

【高度な先進技術】

一酸化窒素吸入療法、低体温療法、血液浄化療法、カテーテル治療、各種酵素補充療法、各種遺伝子診断など。

【診療科における研究テーマ】

分子生物学的手法を用いた種々の疾患の病態解析、脂質輸送機構の解析、心エコー・各種バイオマーカーによる小児心疾患の多角的解析、小児四肢疼痛発作症の病態解析など。



診療科長/教授

高橋 勉

Tsutomu Takahashi

メッセージ

県内小児医療の中核としての役割を果たすべく、地域医療機関との連携、診療科内のグループ連携を円滑にし、高度な医療を提供しています。さらに外科疾患も含め、診療科や職種を越えて検査や全身管理に関して協力して取り組んでいます。

新生児に対してはNICU(図左)・GCUでの独立した診療体制を整えており胎児期からチームで関わっています。

また、長期入院が必要となる疾患も多いため心の健康も重視しています。健全な心の発達を促す目的で、プレールーム(図右)や病室で保育士が活動しています。小中学の院内学級もあり、お子さんと保護者への精神的負担を最小限にしつつ治療に専念できる環境を目指しています。

産科婦人科

Obstetrics and Gynecology



連絡先

●018-884-6367 (婦人科外来) ●018-884-6368 (産科外来)

●018-884-6163 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/>

女性の健やかな人生とヒトの命の流れを紡ぐために。

【診療科の概要】

産婦人科は、女性の一生の身体的のみならず精神的な健康に関わっています。胎児期、新生児期、学童期、思春期、性成熟期、更年期、老年期のそれぞれの時期に特有の疾患があり、それら女性の疾患の診断から治療・フォローアップまで一貫して行っています。

【取り扱うおもな疾患】

産科：正常妊娠・分娩、全ての産科合併症、胎児疾患
 婦人科腫瘍：子宮頸癌、子宮体癌、卵巣癌、その他の女性性器腫瘍
 生殖内分泌：不妊症、不育症、子宮筋腫、子宮内膜症、月経異常など

【主な診断・治療法】

産科：小児科、小児外科などの各部門と連携を取りながら、胎児先天性疾患を有する妊娠、専門性を要する合併症妊娠などの治療にあたっています。県内の重篤な合併症妊娠、前置癒着胎盤などのほぼ全ての症例を取り扱っています。2022年の分娩数は296件(帝王切開103件)。
 婦人科腫瘍：年間約70例のリンパ節郭清を含む悪性腫瘍手術を行っています。これは県内の悪性腫瘍手術の約6割を占めています。手術に加えて、癌化学療法、放射線療法も併用した集学的治療を行っています。2019年2月からはロボット支援婦人科内視鏡手術を開始しています。
 生殖内分泌：不妊症患者に対して、内視鏡手術・生殖補助技術を含めた総合的かつ専門的な治療を行なっています。2022年には197件の内視鏡手術、326例の体外受精の採卵を行っています。2021年よりヒト胚の着床前検査を開始しております。

【高度な先進技術】

大学病院としては全国最多の体外受精を軸とし、内視鏡手術、産科診療も融合したトータルな生殖医学を県民に提供しています。子宮腺筋症の下平式高周波手術器を用いた病巣摘出手術は本年1月日本で4番目の高度先進医療施行施設として認定されております。がん生殖医学は卵巣組織凍結もふくめ開始しています。婦人科腫瘍領域ではセンチネルリンパ節生検による手術の低侵襲化、分子標的薬、腹腔鏡下手術などを患者さんの状況に合わせてのテーラーメイドがん診療を進めております。

【診療科における研究テーマ】

子宮体癌患者におけるリンパ症候群の識別戦略の構築と管理指針の考案。子宮腺筋腫の診断と加療の臨床的な位置づけ。卵巣癌発がんと卵管上皮内病変の関連。子宮頸管熟化のメカニズムおよび圧硬度計を用いた客観的評価法の開発。連続観察によるヒト胚発育の評価および発育挙動に関する分子細胞学的な解析。着床前胚染色体異常性検査 (PGT-A) の基礎的研究。



診療科長／教授
寺田 幸弘
 Yukihiko Terada

メッセージ

日進月歩の医学における「標準医療」は常に修正、改善が加えられ、その安定した履行には不断の努力が必要です。秋田大学産婦人科は皆様に常に安定した「標準医療」をお受けいただけるようにスタッフ一同精進しております。

また、当科は秋田県の産婦人科医療の要として周産期(妊娠出産など)、婦人科腫瘍(子宮癌、卵巣癌など)、そして生殖内分泌(体外受精を含めた不妊治療など)各領域万遍なくエキスパート(認定専門医、認定看護師、認定胚培養士など)を配置し県内の患者さんを受け止めております。

現在のスタッフは私が安心して患者さんを任せられる技術と心を持っております。

皆様安心してご受診ください。



命の誕生



ロボット支援手術



顕微授精



卵巣皮質凍結



子宮腺筋症核出術

精神科

Psychiatry



連絡先

●018-884-6370(精神科外来) ●018-884-6122(精神科医局)

https://www.med.akita-u.ac.jp/~seisin/

大学病院精神科の責務を果たすため
最新かつ質の高い精神医療を提供しています。

【診療科の概要】

高度医療を提供する大学病院の精神科部門として、難治性精神疾患に対する全身麻酔下での修正型電気けいれん療法、睡眠-覚醒障害に対する認知行動療法、治療抵抗性気分障害に対する時間生物学的治療、治療抵抗性統合失調症に対するクロザピン治療などの先端的治療を提供しています。

当院は秋田県の精神科救急医療体制の中で身体合併症対応病院の全県拠点となっており、重篤な身体合併症を有する患者さんや妊娠出産を控えた患者さんを積極的に受け入れ、各科と連携しながら質の高い精神医療を提供しています。また、都道府県がん診療連携拠点病院に指定されており、当科スタッフも緩和ケアチームに参加し、がんおよび重篤な身体疾患を有する患者さんご家族のメンタルケアを行っています。

また、当院では多様な精神疾患に対応できる診療体制を整えています。過眠症、概日リズム睡眠-覚醒障害、慢性不眠症などの睡眠-覚醒障害、自閉症スペクトラム障害や注意欠陥多動性障害などの神経発達症、高齢化社会の中で患者数が増加している認知症などの専門医が診断や治療を提供しています。

【取り扱うおもな疾患】

統合失調症(治療抵抗性も含む)、気分障害(うつ病、双極性障害など)、睡眠-覚醒障害(不眠症、過眠症、概日リズム睡眠-覚醒障害、睡眠随伴症など)、各種てんかんおよび関連精神障害、不安障害(パニック障害、強迫性障害、身体表現性障害など)、外傷後ストレス障害、脳器質性精神障害(認知症、せん妄など)、摂食障害、物質関連障害(アルコール症、ギャンブル・ゲーム依存症)など

【主な診断・治療法】

脳構造・脳機能画像検査、脳波検査、睡眠ポリグラフ検査をはじめとする各種検査による精密診断

各種薬物療法(クロザピン治療を含む)、精神科カウンセリング、認知行動療法などの心理社会療法、時間生物学的治療、修正型電気けいれん療法など

【高度な先進技術】

慢性不眠症に対する認知行動療法、双極性障害に対する対人関係社会リズム療法などの心理社会療法も提供しています。

【診療科における研究テーマ】

- ・向精神薬の適正な使用と休薬を実践するための診療指針に関する研究
- ・ウェアラブルデバイスや人工知能を用いて精神疾患の治療反応性や再発を予測する研究
- ・慢性不眠症、ナルコレプシー、概日リズム睡眠-覚醒障害の病態研究、治療開発研究
- ・抗NMDA受容体脳炎などの自己免疫脳炎に関する臨床研究 など



診療科長/教授

三島 和夫

Kazuo Mishima

メッセージ

こころの病気で悩まれている方が急増しています。精神疾患は決して特殊な病気ではありません。子どもから高齢者まで誰でも思う(わずらう)可能性のある頻度の高い病気です。そのため日本では今後重点的に対処すべき疾患として「がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病」に加えて「精神疾患」を取り上げ、「5大疾病」として医療計画に盛り込んでいます。

体の病気と同様に、こころの病気も早期発見が大切です。どうか気軽に相談下さい。安全で効果のある治療法も次々と見つかっています。私たちは病気に悩まれている患者さんご本人はもちろんのこと、患者さんを支えるご家族の方にも分かりやすくご説明した上で、適切な精神医療を提供するように努めています。患者さんとそのご家族の伴走者として、社会復帰とよりよい暮らしを目指し共に努力いたします。

整形外科

Orthopedic Surgery



連絡先

●018-884-6371 (外来) ●018-884-6148 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~seikei/>

脊椎・骨・関節疾患、四肢外傷、骨軟部腫瘍などの最新治療を行っています

【診療科の概要】

整形外科は、脊椎や四肢、骨・関節の病気や外傷の治療を扱う科です。わたしたちは、薬物治療やリハビリテーションなどの保存療法から手術療法まで幅広く治療し、生活の質の改善、維持を図っています。特に手術療法では、安全で低侵襲な手術に積極的に取り組んでいます。

【取り扱うおもな疾患】

脊 椎 疾 患: 頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症、頸椎症、脊柱靭帯骨化症、側弯症や後弯症など脊柱変形、脊椎腫瘍、脊髄腫瘍、脊髄損傷、脊椎脱臼・骨折、脊椎感染症、関節リウマチ
 関 節 疾 患: 変形性膝関節症、変形性股関節症など加齢に伴う変性疾患、膝靭帯・半月板損傷、肩関節反復性脱臼などのスポーツ障害
 外傷性疾患: 特に難治性骨折、骨盤骨折、多発外傷
 骨軟部腫瘍: 骨や軟部組織から発生する良性・悪性腫瘍
 骨代謝疾患: 骨粗鬆症、骨系統疾患など

【主な診断・治療法】

脊椎グループ、四肢関節グループ、骨軟部腫瘍グループがあり、各グループが、薬物治療やリハビリテーションなどの保存療法から手術療法まで、幅広く治療しています。

【高度な先進技術】

脊椎グループでは、側方進入椎体間固定術、経皮的椎弓根スクリュー刺入、内視鏡視下椎間板ヘルニア切除術などの低侵襲脊椎手術のほか、頸椎、腰椎固定術、側弯症矯正固定術などの難易度が高い手術を、脊髄モニタリングを使用して安全に行っています。

関節グループでは、人工関節置換術、関節を温存する骨切り術、関節鏡視下手術、重症外傷や外傷後の変形治癒・偽関節に対するイリザロフ創外固定を行っています。

骨軟部腫瘍グループでは、悪性の骨軟部腫瘍の治療を手術療法を中心に化学療法(抗がん剤を用いた治療)や放射線療法を組み合わせで行っています。手術療法では、腫瘍用人工関節や人工骨の使用、化学療法の併用により患肢温存手術が増えています。また、切断指などの再接着も行っています。

【診療科における研究テーマ】

骨 代 謝: 基礎研究では骨粗鬆症の実験モデルを用いていろいろな治療法が骨や筋肉などに及ぼす効果に関する研究を、臨床研究では骨粗鬆症患者の脊柱変形や生活の質、転倒予防、寝たきり予防に関する研究を行なっています。

機能的電気刺激: 脊髄損傷や脳卒中などで麻痺した手や足を動かす治療法に関する研究を行なっています。



診療科長/教授
宮腰 尚久
Naohisa Miyakoshi

メッセージ

整形外科は、脊椎、関節、神経、筋、靭帯などからなる「運動器」の疾患を対象としています。運動器の障害により生活の質や、身体活動が制限されます。代表的な疾患は、椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、変形性膝関節症、股関節症、関節リウマチ、骨軟部腫瘍、スポーツ障害、骨折・脱臼などの外傷です。

国民生活基礎調査では、日本人の愁訴の第1位は腰痛、第2位は肩こりといずれも整形外科疾患です。超高齢社会の到来で患者数が増加し、整形外科のニーズはこれまでになく高まっています。秋田県は全国一の高齢県であり、私たち整形外科は地域医療に対する貢献に努めています。

さらに最近では、最先端医療として、脊髄損傷患者の脊髄再生治療も行っています。

皮膚科／形成外科

Dermatology / Plastic Surgery



連絡先

●018-884-6374(皮膚科・形成外科外来) ●018-884-6153(皮膚科・形成外科医局)

①(皮膚科) <https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/dermatology.html>②(形成外科) https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/plastic_surgery.html

様々な皮膚疾患に対する最新の治療をご提供します。

【診療科の概要】

当科は秋田県の高次皮膚科・形成外科診療を担当しています。

皮膚科では、手術が必要な皮膚悪性腫瘍、生物学的製剤による治療が必要な乾癬、難治性の皮膚疾患の患者さんが県全域から紹介されてきます。一方、湿疹・アトピー性皮膚炎・足白癬・帯状疱疹など一般的な皮膚疾患に対しても細心の注意を払って診療するよう心がけています。また、形成外科と協力し、皮膚・軟部腫瘍の外科的治療を担っています。さらに近年、遺伝性皮膚疾患の診療にも力を入れています。

形成外科では、種々の皮弁形成術、マイクロサージャリーを用いた血管吻合術、複合組織移植術などにより、熱傷・外傷・手術後の組織欠損に対する再建術を施行しています。

【取り扱う主な疾患】

皮膚悪性腫瘍(日光角化症・ポーエン病・有棘細胞癌・基底細胞癌・乳房外パジェット病・悪性黒色腫など)、熱傷・熱傷後瘢痕、皮膚潰瘍、乾癬、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎、臀部慢性膿皮症、一般的な皮膚疾患(湿疹・アトピー性皮膚炎・足白癬・帯状疱疹など)、遺伝性皮膚疾患(色素異常症、魚鱗癬、角化症、遺伝性血管性浮腫など)

【主な診断・治療法】

ダーモスコピー:色素性病変の診断

皮膚エコー:皮膚・皮下腫瘍・リンパ節の診断

皮膚生検:様々な皮膚疾患の診断

エキシマライト、ナローバンドUVB:乾癬、悪性リンパ腫の治療

プリックテスト・パッチテスト:アレルギーの原因検索

発汗テスト:無汗症、多汗症

レーザー治療:ルビーレーザーによる色素性疾患治療

手術療法:皮膚良性腫瘍や皮膚悪性腫瘍の切除、熱傷の治療

遺伝子診断:アトピー性皮膚炎、遺伝性対側性色素異常症、網状肢端色素沈着症、魚鱗癬、掌蹠角化症、遺伝性血管性浮腫など各種遺伝性疾患

【高度な先進技術】

生物学的製剤:乾癬、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎(慢性膿皮症)、慢性蕁麻疹、アトピー性皮膚炎、遺伝性血管性浮腫の治療において行っています。

陰圧閉鎖療法:難治性の皮膚潰瘍の治療において行っています。

手術療法:熱傷後瘢痕形成を含む様々な再建術、血管吻合を用いた再建術

【診療科における研究テーマ】

遺伝性皮膚疾患、色素異常症、アトピー性皮膚炎、じんましん、乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬、角化症など患者さんに還元できる研究を行っています。



診療科長／教授

河野 通浩

Michihiro Kono

メッセージ

当科では、他の病院で治療できない重い皮膚病や診断が難しい皮膚病に対して、患者さん一人一人に最も適した高度で専門的な医療を提供することを目指しています。

そのため当科の医師は、患者さんに病気や治療について分かりやすく丁寧に説明し、患者さんと私たちが一緒に治療に取り組めるよう心がけています。

当科は地域の医師からご信頼いただいております。毎日たくさんの患者さんをご紹介いただいております。

この病院に来て本当に良かったと満足していただけるよう、私たちは真心のこもった医療を実践して参ります。

泌尿器科

Urology



連絡先

●018-884-6375 (泌尿器科外来) ●018-884-6156 (泌尿器科医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~hinyoki/>

体に優しい手術など多彩な選択肢から
患者さんの状況に合った最適な治療法を提案します。

【診療科の概要】

泌尿器科は腎臓・尿管・膀胱・尿道といった男女の尿路、および精巣・前立腺・陰茎などの男性生殖器を取り扱う診療科です。腎臓に隣接する副腎の手術も行っています。また腎不全に対する医療(血液透析、腹膜透析、腎移植)を行っています。

【取り扱うおもな疾患】

泌尿器・生殖器腫瘍(前立腺、腎臓、腎盂尿管、膀胱、精巣、副腎、陰茎、尿管)、慢性腎不全、排尿障害および尿失禁、(前立腺肥大症、神経因性膀胱、過活動膀胱、尿道狭窄)、骨盤性器脱、男性不妊症、勃起障害、男性更年期障害、尿路性器感染症、尿路結石症、尿路先天異常(停留精巣、膀胱尿管逆流、尿道下裂)、尿路性器外傷、等

【主な診断・治療法】

腹腔鏡手術：術者が腹腔鏡のカメラを通してテレビモニターで体内を観察しつつ専用の手術器具を操作し、より精密な手術を行います。傷が小さく痛みの少ない回復の早い手術を目的としています。副腎、腎、膀胱、前立腺などの様々な疾患が対象です。近年、手術支援ロボット「ダ・ヴィンチ」や「hinotori」を積極的に用いて成績向上に努めています。

腎移植：当科には約500例の全国トップレベルの腎移植経験数があります。腎臓の提供者(ドナー)に対する手術には、腹腔鏡下手術による腎採取をいち早く導入し、現在では、約5cm程度の1カ所の傷のみでの手術も可能です。

多様な泌尿器がん治療：外科手術(開腹、腹腔鏡、ロボット)、放射線治療、抗がん剤治療、分子標的薬、免疫治療といった、さまざまな治療法を最適な順序に組み合わせ、個々の患者さんの体力や、がんの種類や進行に応じたがん治療を行っています。また多くの国際共同治験などに参加して、最新の治療を行なっています。

【高度な先進技術】

ロボット支援手術：前立腺全摘術、腎部分切除術、膀胱全摘術、腎盂形成術、腎尿管全摘除術、副腎摘除術をロボット支援下で行っています。術者は拡大された立体画像を見ながら、精密なロボットアームを操作して手術を行います。

当科には、すでに1,000例以上のロボット支援手術の経験があります。

【診療科における研究テーマ】

高脂肪食、糖尿病やメタボ症候群とがんの関連の研究、患者由来異種移植モデルの研究、遺伝子とがん治療薬や免疫抑制薬との関連の研究、前立腺がんの内分泌療法の研究、手術後の機能回復を促進する人工素材の開発研究など。



診療科長/教授

羽 瀧 友 則

Tomonori Habuchi

メッセージ

泌尿器科の疾患は治療法の選択肢が比較的多いことが特色です。当科が扱う主な病気である泌尿器がんや慢性腎不全などでは、高齢の患者さんが多いですが、医療者が一人ひとりの年齢、生活背景や身体の状態を適切に判断することで、患者さんが様々な治療法の選択肢の中から個別に最適な治療法を選択できるように気を配っています。患者さんへ負担の少ない腹腔鏡手術やロボット支援手術も、より多くの患者さんへ最適な選択肢を提供する試みの一環です。慢性腎不全の治療法も、血液透析、腹膜透析、腎移植とすべての選択肢を用意しています。当科の研究課題も、個々の患者さんの遺伝子などの背景を調べ、個別の最適な治療の選択肢を探る研究が多くなっています。当科ではこれらの試みを通して社会の皆様に貢献することを目標としています。

眼科

Ophthalmology



連絡先

●018-884-6376(外来) ●018-884-6167(医局)

<https://eye-akita-u.jp/>

地域医療の中核的機関として眼科先端医療を提供します。

【診療科の概要】

眼に関するあらゆる疾患に対して、高い水準を持って対応することを理念としております。また、地域医療との連携を密にし、秋田県内の患者様に還元することを使命としています。視神経の立体写真をとる特殊な眼底カメラ、三次元画像解析装置を用いた視神経の画像解析装置、隅角の超音波検査装置など、最新の診断機器を導入し、患者さんの早期発見に努めています。

【取り扱うおもな疾患】

網膜剥離、糖尿病網膜症などの多くの網膜疾患、緑内障、白内障、加齢黄斑変性、ぶどう膜炎、視神経炎、斜視・弱視、角膜移植など幅広い分野に及びます。

【主な診断・治療法】

視力検査、眼圧検査、屈折検査、視野検査、角膜内皮細胞測定、光学式眼軸長検査、光干渉断層計(SD-OCT)、眼底写真検査、など。

緑内障手術、白内障手術、硝子体手術、網膜復位術、網膜光凝固(マルチカラーズキャンレーザー)、光線力学療法(PDT)、など最新の機器をもって検査診断に当たります。

【高度な先進技術】

極小切開硝子体手術、緑内障インプラント手術、角膜移植など。県内でも大学病院でしかできない治療も取りそろえております。

【診療科における研究テーマ】

当科では、失明につながる網膜疾患の病態の解明を主テーマに研究を進めております。また、多施設共同研究で緑内障の進行因子の解析を研究題目として掲げ、高齢化社会における社会的責任を担っております。

【その他】

初診時の待ち時間軽減対策として、地域医療連携室を介したFAX予約を推進しております。



眼科外来受付



視力検査室



診療科長/教授

岩瀬 剛

Takeshi Iwase

メッセージ

眼科は、秋田県各地から毎日、難治性の疾患や希少な疾患を含めて多くの患者さんが紹介されてきており、経験豊富なスタッフ(専門医)が対応しています。外来では最先端の診断機器も設置されておりますので的確な診断を行うことができ、最新の手術機器などを用いて安全な治療を提供し良好な治療成績を得ております。地域の病院や開業医の先生方とも密接に連携し治療を円滑にできるような体制をとっており、緊急性が高い場合には速やかに入院し緊急手術も行なっています。今後も県内の皆様に最先端の医療を提供して参ります。

耳鼻咽喉科

Otorhinolaryngology



連絡先

●018-884-6377 (耳鼻咽喉科外来)

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/otorhinolaryngology.html>

耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部の疾患全てに対し、幅広く高度な医療を提供しています。

【診療科の概要】

耳鼻咽喉科・頭頸部外科は、人のQOLに直接的に関わる聴覚、平衡、嗅覚、味覚、嚥下、発声、笑顔を専門的に取り扱い診療範囲が多岐にわたる特徴を持っています。県内唯一の特定機能病院、大学病院として当該領域のあらゆる疾患に対して柔軟に対応してきています。手術は、耳科側頭骨頭蓋底領域（鼓室形成術から内視鏡耳科手術、人工中耳・人工内耳埋め込み術、聴神経腫瘍摘出術、顔面神経再建術）、鼻副鼻腔頭蓋底領域（アレルギー性鼻炎に対する内視鏡手術から難治性副鼻腔炎や腫瘍に対する拡大鼻副鼻腔手術）、喉頭領域（音声外科、嚥下改善手術）、頭頸部領域（扁桃摘出から甲状腺を含む頭頸部癌切除及び各種遊離・有茎皮弁再建術・皮弁のデザイン・採取を含む）、ロボット支援手術、光免疫療法とすべての領域の治療を行っています。

【取り扱うおもな疾患】

耳 疾 患：難聴、中耳炎、真珠腫性中耳炎、中耳奇形、顔面神経麻痺、外耳・中耳腫瘍、聴神経腫瘍など
鼻副鼻腔疾患：副鼻腔炎、鼻アレルギー、嗅覚障害、鼻副鼻腔腫瘍など
口 腔 疾 患：舌炎、味覚障害、口内炎、口内乾燥症など
咽 喉 頭 疾 患：扁桃炎、咽喉頭炎、声帯ポリープ、発声障害など
め ま い：メニエル病、前庭神経炎、良性発作性頭位めまい症など
頭 頸 部 腫 瘍：上顎腫瘍、舌・口腔腫瘍、咽頭腫瘍、喉頭腫瘍、甲状腺腫瘍、耳下腺腫瘍、その他の頭頸部腫瘍
そ の 他：気道・食道異物、顔面外傷、嚥下障害、睡眠時呼吸障害

【主な診断・治療法】

耳 領 域：耳音響放射線検査(OAE)、聴性定常反応(ASSR)、調整脳幹反応(ABR)、側頭骨外科手術、耳科手術、人工内耳、人工中耳・埋め込み型骨導補聴器
鼻 領 域：鼻腔通気度検査、嗅覚検査、内視鏡下鼻副鼻腔手術
口 腔 領 域：電気味覚検査、唾液分泌検査
咽 喉 頭 領 域：喉頭ストロボスコップ、音声機能検査、喉頭枠組み手術による音声改善
め ま い：赤外線CCD眼球運動検査装置、めまいリハビリ
頭頸部腫瘍領域：内視鏡的咽喉頭手術(ELPS)、経口腔的ビデオ喉頭鏡下手術(TOVS)、化学放射線治療、腫瘍切除および各種皮弁を用いた再建術、ロボット手術、光免疫療法
そ の 他：顔面神経麻痺減荷術

【高度な先進技術】

小児難聴、先天性難聴の遺伝子検査、人工聴覚器・人工中耳による聴力改善手術、鼻腔悪性腫瘍に対する内視鏡手術、アレルギー性鼻炎に対する舌下特異的免疫療法および手術治療、各種遊離・有茎皮弁を用いた頭頸部癌再建手術、抗体療法

【診療科における研究テーマ】

鼻 副 鼻 腔：鼻アレルギーの基礎的・臨床的検討、抗原特異的反応の制御、真菌アレルギーの病態解明、抗体療法の層別化医療、難治性副鼻腔炎の病態
頭頸部腫瘍：癌浸潤・転移、および癌幹細胞の分化とメカニズムの解析
耳 科：分子遺伝学的検討、ヒト内耳を用いた研究、顔面神経再建
喉 頭：音声障害に関する臨床的・外科的検討



診療科長／教授

山 田 武千代

Takechiyo Yamada

メッセージ

当科は、県内唯一の特定機能病院としての役割を担い、県内及び周辺地域全域の最終受け入れ病院として耳鼻咽喉科領域のすべての疾患に関し高度な医療を提供することを目指しています。頭頸部癌の治療に関しては、口腔、咽喉頭、鼻副鼻腔、耳科側頭骨領域に発生する癌で、呼吸、発声言語機能、嚥下摂食機能、聴覚、顔面表情機能に関わります。他科、看護師、言語聴覚士とも連携し生命予後だけでなくQOLの維持向上を目指したチーム治療を行っています。全国に先駆けて高齢化医療が進み、最先端モデルとなる秋田県では、癌、難聴、嚥下障害などで悩む患者さまが多く、これらを克服すべく、また、生後間もない赤ちゃんから老人まで、人工聴覚臓器(人工内耳・人工中耳・埋め込み型骨導補聴器)、癌に対する内視鏡下手術、内視鏡下鼻副鼻腔手術、内視鏡下耳科手術、ロボット支援手術、抗原特異的免疫療法、分子標的治療薬、光免疫療法など、最先端の医療を提供しています。

放射線診断科／放射線治療科

Diagnostic Radiology / Radiation Oncology



連絡先

●018-884-6378(外来) ●018-884-6179(医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~housya/>

各科と連携し、臓器横断的な診断・治療を行っています。

【診療科の概要】

放射線診断科では院内の全ての科を対象とした画像診断を受け持ち、院外からの検査依頼にも適宜対応しています。各科とのカンファレンスを持ち治療方針の決定に関与しています。血管内治療(カテーテル治療)では悪性腫瘍など様々な疾患の塞栓術などを行っています。さらに放射性同位元素を用いた放射線治療として甲状腺疾患に対するヨード内用療法、骨転移に対するラジウム療法も行っています。

放射線治療科では最新鋭の治療装置・技術を駆使して、悪性腫瘍や一部の良性疾患(ケロイドや良性腫瘍など)に対する放射線治療を提供しています。強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(STI)、画像誘導下放射線治療(IGRT)などの高精度放射線治療、前立腺癌に対するシード組織内刺入や子宮癌に対する画像誘導下腔内照射(3D-IGBT)などの小線源治療も行っています。

【取り扱う主な疾患】

悪性腫瘍全般、血管内治療の適応疾患(血管奇形・狭窄、動脈瘤など)、CTガイド下interventionの適応疾患(生検、ドレナージなど)、救急疾患全般

【主な診断・治療法】

ポジトロン断層撮影(PET-CT)、ヨード内用療法、腔内照射療法(RALS)、前立腺癌に対する小線源刺入療法、種々血管内治療等

【高度な先進技術】

強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)、定位放射線治療(脳、肺、肝臓等)、呼吸同期照射(肺、肝臓等)

【診療科における研究テーマ】

癌幹細胞のホウ素取り込みの研究、オートプシーイメージ、非侵襲的右・左短絡の測定法の検討、硬膜動静脈瘻・肺動静脈瘻の治療、乳癌の総合画像診断、リンパ管造影と治療への応用など

【その他】

最新鋭の機器を駆使し、大学ならではの専門性を活かした診療を行うよう努めています。



放射線診断科



放射線治療科



診療科長／教授

森 菜緒子

Naoko Mori

メッセージ

診断は最新鋭の診断機器を用い患者様ごとに最適な撮像を行い、他の画像データも利用し迅速・正確な診断をおこなっています。死因特定のための診断も行っています。治療は良性を含めた腫瘍性病変のほか血管奇形・緊急疾患など幅広く行っています。高精度放射線治療装置を用いたがん治療は体にやさしく手術以上の治療効果が得られるまで進歩しています。また、放射性同位元素を用いた“ミサイル療法”は種類によっては県内唯一の実施可能施設です。急速に進む高齢化をにらみ、今後も県内医療に貢献してまいります。

麻酔科

Anesthesiology



連絡先

●018-884-6379 (外来) ●018-884-6175 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~masui/>

すべての患者さんが安全に全身麻酔を受けられるために
全力を尽くします。

【診療科の概要】

手術時の全身麻酔管理を行うほか、手術室以外での検査時の全身麻酔管理も行っています。今後は術中だけでなく、術前・術後を含む周術期管理にも積極的に関わっていきます。ペインクリニック外来においては、難治性疼痛や筋膜炎性疼痛の治療を重点的に行っています。

【取り扱うおもな疾患】

- ・全身麻酔を必要とするすべての疾患
- ・急性および慢性の難治性疼痛

【主な診断・治療法】

患者監視システムにより麻酔中の全身状態を的確に把握し、安全な麻酔管理を施行しております。

【高度な先進技術】

麻酔深度モニター・麻酔薬の血中濃度シミュレータの使用により、最適な麻酔を施行しています。

【診療科における研究テーマ】

- ・全身麻酔後の高次機能障害
- ・高齢者に対する麻酔・手術の影響
- ・デジタルデバイスを用いた学生教育システム



全身麻酔管理



ペインクリニック外来



診療科長／教授

新山 幸俊

Yukitoshi Niiyama

メッセージ

麻酔科は手術中の全身管理を担当しています。県内唯一の大学病院として県内全域からの患者さんを受け入れており、心臓手術など難易度の高い手術の麻酔管理に24時間体制で取り組んでいます。高血圧、心疾患、糖尿病、腎臓病などの合併症のある患者さんが手術を受ける機会が増えているため、個々の患者さんに最適なオーダーメイドの麻酔法を選択します。ペインクリニック外来では難治性疼痛の治療を行っています。

リハビリテーション科/リハビリテーション部

Department of Rehabilitation Medicine/Division of Rehabilitation Medicine



連絡先

●018-884-6372(リハビリテーション外来)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/rehabilitation_medicine.html

最先端のリハビリテーション医療を提供します

【診療科の概要】

臨床各科から依頼を受けて専任医師がリハ処方を行い、経験豊富な療法士による専門的な治療を実施しています。

【取り扱う主な疾患】

対象としている主な疾患は、脳卒中・脳腫瘍・脳性麻痺などの脳疾患、筋萎縮性側索硬化症・多発性硬化症・脊髄小脳変性症などの神経疾患、脊髄腫瘍・脊柱変形・椎間板ヘルニア・腰椎すべり症などの脊椎・脊髄疾患、変形性関節症・四肢切断・手の外傷・リウマチ・スポーツ障害・交通外傷などの整形外科疾患、肺気腫などの呼吸器疾患、心筋梗塞・狭心症などの循環器疾患、悪性腫瘍、廃用症候群、小児疾患など多岐にわたっています。

【主な診断・治療法】

施設基準として、心大血管疾患リハビリテーション(I)、脳血管疾患等リハビリテーション(I)、運動器リハビリテーション(I)、呼吸器リハビリテーション(I)、廃用症候群リハビリテーション(I)、がん患者リハビリテーションを取得しています。

【高度な先進技術】

特色として、機能的電気刺激(functional electrical stimulation; FES)による治療があります。FESは 脳卒中や脊髄損傷などにより麻痺した手足を電気刺激により動かす治療法で、整形外科と共同して最新の表面電極FES装置による治療に取り組んでいます。また、上肢用ロボット型運動訓練装置による治療効果の検討などを進めています。



新型の表面電極FES装置

リハビリマウス

【診療科における研究テーマ】

リハビリテーション治療に関する基礎・臨床研究をはじめ、理工学部・秋田高専などとの医工連携により、先端医用工学を駆使した新たなリハビリテーションロボットをはじめ、さまざまなリハビリテーション医療機器の開発を進めています。



診療科長/教授

宮腰 尚久

Naohisa Miyakoshi



診療部長/准教授

粕川 雄司

Yuji Kasukawa

メッセージ

わたしたちは、最先端のリハビリテーション医療を提供できる体制を整え、秋田県における良質なリハビリテーション医療の普及にも携わっております。また、先端医用工学をリハビリテーション治療に応用し、脳卒中・脊髄損傷などの麻痺肢再建に取り組んできました。これらに付随する技術は、他方面にも応用され、医学の進歩に寄与しています。現在は、リハビリテーションロボットをはじめとする様々な先端医用工学機器の研究・開発・臨床応用にも取り組んでおります。先端医用工学技術の進歩により、従来のリハビリテーションゴールを越える機能をもたらすことは、患者のみならず、次世代の医療技術開発の先駆けともなると考えます。

腫瘍内科

Clinical Oncology



連絡先

●018-884-6571 (腫瘍内科外来) ●018-884-6261 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~medonco/>

エビデンスに基づいた世界標準の
抗がん剤治療を提供します。

【診療科の概要】

外科的に切除が不可能とされた進行癌、再発癌などの薬物療法(抗癌剤、分子標的薬など)を行う。全てエビデンスに基づく、医学的に実証された世界標準の薬物療法を実践する。県内で唯一、複数のがん薬物療法専門医が所属し、十分な討議を経て治療方針を決定する。進行癌は治癒が困難な症例が少なくないが、クオリティ・オブ・ライフの維持に重点を置いた質の高い生存期間の延長を目指した治療を行う。高齢者には、各々の臓器機能などに応じた薬物療法を提案する。地域のがん拠点病院と連携し、個人個人が、できる限り居住地で標準治療が行うことができる体制を構築する。標準治療が無効となった固型がんに対してがんゲノム診断を実践する。緩和ケアの重要性を認識し、全てのスタッフが緩和ケアを実践できる。

【取り扱うおもな疾患】

すべての進行癌を対象としている。特に胃癌、大腸がん、膵癌、胆道癌、食道癌、神経内分泌腫瘍、軟部肉腫、皮膚癌、頭頸部癌、原発不明癌などを中心に手術不能な全ての固形腫瘍を対象としている。その他、希少癌、重複癌などの診療も行う。

【主な診断・治療法】

がん遺伝子診断、分子標的診断。化学療法(抗癌剤治療、分子標的治療、免疫チェックポイント阻害剤)、がんゲノム診断、化学放射線治療、疼痛緩和ケア、支持療法(栄養補助)など。

【高度な先進技術】

抗癌剤の血中濃度測定。
循環腫瘍細胞、循環腫瘍DNAの測定。
がんゲノム診断。

【診療科における研究テーマ】

新規抗癌剤の開発。
抗癌剤の効果判定用バイオマーカーの開発。
発癌予防法の開発。

『がん薬物療法専門医』とは質の高いがん薬物療法を実現するために幅広い臓器のがん薬物療法の知識と技術をもった専門医です。2023年4月現在、県内には6名、うち大学病院には5名が認定を受けています。さらに腫瘍内科医は2019年6月に保険収載された「がんゲノム」医療のキーマンとして活動してゆきます。



診療科長/教授
柴田 浩行
Hiroyuki Shibata

メッセージ

腫瘍内科は手術不能とされた癌患者さんをクスリで治療する診療科です。手術で癌を切除するのが、現在の所、唯一治癒可能な治療法です。「治癒可能なクスリ」の開発は研究課題で、その誕生は我々の夢です。手術できない癌に使う多くのクスリには副作用があります。これをできる限り安全に、患者さんへの負担なく使用するのが、我々の使命です。抗癌剤治療は「一気に」はできません。時間をかけて行います。また、癌ばかりを見て患者さんの体調に配慮しないのも治療とは言えません。「木を見て、森を見ず」ではいけません。また、「いちか、ばちか」も慎むべきです。しかし、難治癌の患者さんにとって、我々が拠り所であるという自覚を持って診療にあたりたいと思っています。

救急科

Emergency Medicine



連絡先

●018-884-6185(医局)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/emergency_medicine.html

すべての領域の救急患者に対する初期対応と重症患者に対する集中治療を行っています。

【診療科の概要】

救急搬送患者に対する高度救命救急センターでの初期診療と集中治療部(ICU: Intensive Care Unit)での重症患者の管理を担っています。高度救命救急センターでは迅速に状態を把握し、病状を安定化させ、必要に応じて各診療科へ引継ぎます。状態によってはそのまま継続して治療を行い救急科が主治医を務めることもあります。また、ICUでは他診療科の患者さんに対しても、人工呼吸器管理や血液浄化などの治療を協同して行っています。

【取り扱うおもな疾患】

高度救命救急センターではすべての疾患に対して初期対応を行います。ICU等で入院治療を担当するのは主に以下の疾患です。院外心停止、急性中毒、広範囲熱傷、多発外傷、敗血症、急性呼吸窮迫症候群(ARDS: acute respiratory distress syndrome)、急性血液浄化療法を必要とする急性腎障害等の臓器障害、多臓器不全など。

【主な診断・治療法】

ICUでは各種生体モニターや人工呼吸器、各種血液浄化法等を駆使して重症患者の診療を行います。

【高度な先進技術】

重症呼吸不全に対する体外式膜型人工肺(ECMO: Extracorporeal membrane oxygenation)、心停止蘇生後の体温管理(低体温療法)、急性血液浄化療法等。

【診療科における研究テーマ】

急性血液浄化療法(PDF: Plasma filtration with dialysis療法など)、救急集中治療領域における漢方治療、災害医療体制の構築、心肺停止後蘇生率向上のための病態解明とメディカルコントロール体制の構築。

【その他】

当院は基幹災害拠点病院として、秋田県の災害医療の中心的な役割を担っています。救急科では日頃から災害派遣医療チーム(DMAT: disaster medical assistance team)をはじめとした災害医療体制の構築とその充実に向けた活動を行っています。



診療科長/教授

中 永 士 師 明

Hajime Nakae

メッセージ

近年の医療技術の進歩に伴い、医療者の専門性は高度化し、ますます細分化されてきています。一方、それは日本社会に高齢化をもたらし、一人の患者さんが多数の問題点を抱え一人の専門家だけでは治療が難しい時代になっています。救急領域においても同様に、臓器別専門性だけでは対応できない新しい治療法や概念が次々に登場しています。

救急科は、罹患した臓器にとらわれず重症患者対応の専門家としてとして初期治療から集中治療まで行っています。集中治療部においては、現場からの救急搬送患者のみならず県内各地の病院から転院してくる重症者に対し、他診療科と協力し人工補助療法等の治療を行っています。

病理診断科／病理部

Division of Clinical Pathology



連絡先

●018-884-6200 (病理診断科／病理部)

https://www.hosokita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_clinical_pathology.html

患者様のお役に立てる良質な病理組織診断・細胞診断の提供を目指しています。

【診療科の概要】

病理診断科／病理部は、手術や検査などにより得られた組織や細胞の検体に対して、病理組織診断や細胞診断を行っており、臨床医療の一端を担う重要な部門と言えます。病理医、細胞検査士、臨床検査技師などが協力して業務にあたっています。また、手術中に腫瘍の性状や切除断端の情報を臨床医に提供するため、術中迅速診断を行っています。凍結切片による組織診断と捺印細胞診を併用し、約15分で結果を手術室に報告します。また2012年からは、秋田県と秋田大学で共同開発した電界攪拌法による迅速免疫染色システムを用いて、より詳細な情報の提供も可能になりました。病理診断結果、病理画像、デジタル化したバーチャルスライド画像は、2010年から院内すべての電子カルテから閲覧できる体制を構築しており、患者様への病状説明やカンファレンスといった場で活用されています。また私達は、ご遺族からのご承諾をいただいた場合に、病理解剖を行っています。亡くなった患者様の死因や問題点の究明によって、よりよい医療の実現に努めています。

【取り扱うおもな疾患】

ほぼ全科にわたっており、あらゆる疾患の組織診断、細胞診断に対応しています。

【主な診断】

腫瘍性疾患(悪性腫瘍、良性腫瘍)、非腫瘍性疾患(炎症性疾患、先天性疾患など)、様々な疾患の診断を行っています。

【高度な先進技術】

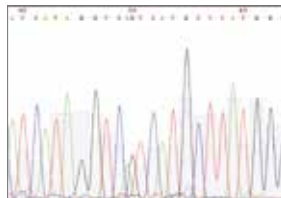
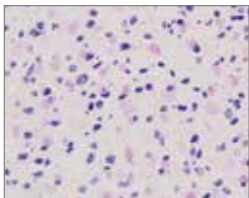
迅速免疫染色システムを用いた術中迅速診断
バーチャルスライド画像を用いた病理診断

【診療科における研究テーマ】

迅速自動免疫染色システムを用いた術中迅速診断の高精度化
AI技術を用いた病理診断支援システムの開発

診療実績

年 度	迅速診断	免疫組織	病理組織診断	細胞診断	病理解剖
2014	801	1,633	6,870	6,610	31
2015	805	1,690	6,841	6,136	25
2016	798	1,870	7,302	6,032	23
2017	810	2,213	7,300	6,027	38
2018	865	2,297	7,416	6,103	23
2019	683	2,455	7,726	5,877	15
2020	727	2,801	7,747	5,983	18
2021	719	2,704	8,117	5,973	19
2022	707	2,696	7,799	5,879	14



診療科長／部長／病院教授

南 條 博

Hiroshi Nanjo

メッセージ

病理と聞くと、患者様と接する機会の少ない地味な印象をお持ちになるかもしれません。しかし、病理診断は治療方針の決定にも関わる大切な業務であると認識しております。スタッフ一同協力し、日々業務に取り組んでおります。

歯科口腔外科

Dentistry and Oral Surgery



連絡先

●018-884-6380(歯科口腔外科外来) ●018-884-6188(医局)

<http://www.med.akita-u.ac.jp/~shika/>

顎骨再建と歯科インプラントによる咬合再建において、最新技術を導入しています。

【診療科の概要】

顎口腔領域の外傷(上顎骨・下顎骨骨折)、炎症、腫瘍および嚢胞、口唇口蓋裂、顎変形症、顎関節疾患、歯科インプラント、難抜歯などの治療を専門に行っています。最近では、外傷や腫瘍が原因の顎骨欠損に対して、顎骨を再建した後に、H24年度より保険導入された広範囲顎骨支持型装置を応用した顎口腔機能の回復治療にも積極的に取り組んでいます。また、全身疾患を有する患者さんや障害者の方に対し、治療の支障となる口腔疾患や全身疾患に関連する口腔症状の発見・治療および口腔ケア指導によるQOL向上への支援も行っています。

【取り扱うおもな疾患】

顎顔面外傷・炎症、口腔悪性腫瘍、口腔良性腫瘍、口唇口蓋裂、顎変形症、顎関節疾患、口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、歯科インプラント、難抜歯など

【主な診断・治療法】

1. 顎顔面外傷・炎症の治療
2. 口腔腫瘍の治療(図1)
3. 口唇口蓋裂の治療(図2)
4. 顎変形症に対する外科的矯正治療(図3)
5. 顎関節症の治療
6. 歯の欠損に対する歯科インプラント治療(図1)
7. 口腔腫瘍切除後の顎骨再建および顎顔面補綴治療

【高度な先進技術】

1. 口腔癌の一貫治療
2. カスタムメイドチタンメッシュトレーを用いた顎骨再建
3. 顎骨再生療法を併用した歯科インプラント治療
4. 口唇口蓋裂の一貫治療
5. 3Dモデルを用いた顎変形症手術

【診療科における研究テーマ】

1. 生体材料と再生医療に関する研究
2. 口腔機能と発癌に関する研究
3. 口腔癌に対する新規治療法に関する研究
4. 歯科インプラントによる口腔機能再建に関する研究
5. 顎変形症手術の精度に関する研究



図1 口腔癌術後の顎骨再建と咬合再建

図2 口唇形成術

図3 顎変形症手術



診療科長/病院教授

福田 雅幸

Masayuki Fukuda

メッセージ

秋田県の口腔外科疾患の三次医療機関として、口腔外科治療を専門に行っています。

1年間の新患者数は約2,200名を超え、そのほとんどが他院からの紹介患者で占められています。秋田県内の口腔外科二次医療機関との連携により、迅速な対応を心掛けています。

高齢者臨床検査科

Department of geriatric clinical-examination



連絡先

●018-884-6369 (外来)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/department_of_geriatric_clinical-examination.html

高齢者の方々に安心していただける認知症の
専門医療を提供いたします。

【診療科の概要】

高齢者臨床検査科は、認知症を中心に高齢者の方ご本人やご家族の方の意思や尊厳を第一に考え、皆様にご安心していただけるような医療を目指します。医師2名、看護師4名、臨床心理士1名の体制で外来診療を行います。地域の医療機関や院内の各科とも連携をしながら、適切な高齢者医療を提供いたします。

【取り扱うおもな疾患】

軽度認知機能障害(MCI)、アルツハイマー型認知症、脳血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症、フレイルなど

【主な診断・治療法】

血液検査、心電図、頭部CT、MRI、脳血流SPECT、FP-CIT、MIBG心筋シンチなどで疾患の鑑別診断に必要な検査を行います。また一人ひとり時間をかけて、ご本人ばかりでなくご家族に対しても、詳細な精神神経心理検査を行います。治療法に関しては、患者様の状態に最も適した治療法、非薬物療法から薬物療法、また漢方薬を使用した治療などを提供いたします。

【診療科における研究テーマ】

高齢者の認知症の危険因子を解明する研究を主に行っております。また高齢者ばかりでなく若年性認知症に関する研究や認知症を早期発見、早期診断するためのバイオマーカーに関する研究を行っております。

【その他】

認知症は様々な状態があり、生活環境や家族の人間関係などと密接に症状が関連しています。病気のより良い治療や症状の進行を抑えるために適切なアドバイスを行えるよう、また診断された後もプライバシーを守り、安心して暮らせるように診療を進めてまいります。



診療科長／教授
南谷 佳弘
Yoshihiro Minamiya

メッセージ

当診療科は外来診療のみではありますが、当院の認知症診療におけるゲートキーパー機能の役割を担っていくほか、これまで複数の診療科で行われていた認知症診療を包括的に対応することを目指します。また長年、秋田市内で認知症診療に携わり、認知症診療の第一人者である横浜総合病院の長田乾医師を招へいし、月一回の診療をすることとしており、当院の認知症診療における質の向上や、医療従事者への指導などで病院機能の強化を図ります。

病気ばかりでなく、人を診ることをモットーに、地域とのつながりや人と人との支え合いを大切にし、全人的医療を目指します。

中央検査部

Central Laboratory Division



連絡先

● 018-884-6198 (検査部受付・事務)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~gimclm/cld/index.html>

大学病院の高度な診療を支える
国際規格に基づいた迅速かつ質の高い検査データを提供します。

● 特色

臨床検査技師が大学病院での多岐にわたる検査を担当しています。

検査システムを導入し、検査依頼から結果報告まで一元管理しています。また自動化された最新検査機器により迅速かつ正確な検査を行っています。輸血部と合同で当直体制を整え、緊急検査・輸血にも24時間体制で対応しています。

● 活動内容

中央採血室にて1日350人～400人の外来患者さんの採血を行っています。①検体検査部門(血液検査、生化学・免疫検査、一般検査等) ②生理検査部門(心電図検査、超音波検査、呼吸機能検査、脳波検査等) ③微生物検査部門(細菌検査、抗酸菌検査、コロナウイルスPCR検査等の遺伝子検査)の3部門に分かれます。

臨床検査医と臨床検査技師の連携体制のもと、基本的な検査から先進医療に不可欠な検査まで幅広い業務を行っています。2023年10月には、臨床検査室に特化した国際規格ISO15189(臨床検査室一品質と能力に関する要求事項)の認定を受けています。このISO15189は、検査の品質と能力が国際基準に達しているかどうかを第三者機関の非常に厳しい審査を経て認定される国際規格であり、秋田県内では初めての認定臨床検査室となります。分野横断的な特徴を生かした感染対策にも力を入れており、院内のICT(インフェクションコントロールチーム)の参加、地域の感染対策ネットワーク、2010年からは「秋田大学PCRラボ」を運営しています。臨床検査に関する医学教育、研究開発にも取り組んでいます。



部長/教授

植木 重治

Shigeharu Ueki

メッセージ

中央手術部

Central Operating Division



連絡先

● 018-884-6203 (手術部受付)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/central_operating_dvision.html

手術を受ける患者さんに先端的機器を提供し、
安全かつ効率的な手術部運営を行っています。

● 特色

手術部の業務は 1) 手術を受ける患者の安全を確保する、2) 医師、看護師、コメディカルスタッフが快適で効率的な業務を行えるよう運営する、3) 各診療科が望む先端医療を行える環境を整える、ことです。

● 実績

手術件数は年々増加し、2020年度は総手術件数5,659件、総手術時間12,087時間、総麻酔時間16,600時間でした。

手術部は様々な先端的機器・システムを導入しています。1) 器械コンテナにICタグを、手術器械に2次元バーコードを刻印し、トレーサビリティ管理システムを導入しています。2) ハイビジョンでの術野画像の録画を行い、病院情報システムの端末で見ることができます。3) 内視鏡手術支援ロボットによる手術を行っています。4) 自動麻酔記録装置により、すべての生体情報(呼吸、循環、筋弛緩の効果、麻酔薬の血中濃度シミュレーション、等)が手術部情報システムで解析できます。5) 2021年11月よりハイブリッド手術室が稼働し、経カテーテルの大動脈弁移植術やステントグラフト内挿術を中心とした高度な血管内治療や手術を行なっています。



部長/教授

新山 幸俊

Yukitoshi Niiyama

メッセージ

中央放射線部

Central Radiology Division



連絡先

●018-884-6305 / 018-884-6304 (中央放射線部受付)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/central_radiology_division.html

主に放射線を用いた様々な画像検査及び放射線治療を行っています。

●特色

当部門は、各診療科の要請に応えるべく、放射線診療を行っています。大きく放射線画像診断部門と放射線治療部門に分かれて業務しております。

●活動内容

放射線画像診断部門では、X線撮影、CTやMRIによる各種画像診断に加え、血管造影ではカテーテルを用いた治療(IVR)も行っております。また、核医学検査では放射性同位元素を用いてSPECT検査やPET-CT検査も行っております。放射線治療部門では、高エネルギー放射線装置を用いて体の外からがん組織に照射し(外照射)治療を行います。また、放射性同位元素を用い、体の中からの治療(内照射)も行っております。

当部門では患者さんに安心して安全な診療を受けて頂けるよう、医師・看護師・診療放射線技師がチームで連携し、病気の診断や治療に役立つ画像情報を各診療科に提供しています。また、放射線治療では強度変調放射線治療(IMRT)や定位放射線治療(脳・体幹部)などの高精度放射線治療や腔内治療、その他放射性同位元素の内服・刺入等の治療にも対応しております。最新の技術を取り入れた、安全でより良い放射線診療をスタッフ一同心掛けております。



部長／教授

森 菜緒子

Naoko Mori

メッセージ

中央材料部

Central Supplying Division



連絡先

●018-884-6306 (中央材料部)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/central_supplying_division.html

安全な医療・看護を、縁の下からずっと支え続けています!!

●特色・活動内容

手術器材をはじめ院内全ての再生器材の洗浄・消毒・滅菌を行う中央材料部と医療材料の在庫管理を行うSPDセンターの2部門から成っています。

中央材料部では2011年に手術部のトレーサビリティ、2012年12月の手術支援ロボット「ダヴィンチ」導入に伴い、インストゥルメントの洗浄滅菌を開始しました。

SPDセンターでは、第一に安全な医療・看護の提供と、経費適正化に基づいた医療材料を選定購入しています。2017年11月に物流システム導入に伴い、院内全体の医療材料の在庫・使用状況を把握し適正な管理・供給を行っています。

中央材料部は、病院内で使用し血液などで汚れた手術器具や再度使用可能な医療材料の洗浄と消毒を行う病院の中央部門です。また、安定した医療材料の供給と、適正な手術器具などの医療機器や医療材料の在庫数を管理する部門でもあります。このように中央材料部は病院での診療を支援する重要な役割を担っております。



部長／教授

脇 裕典

Hironori Waki

メッセージ

集中治療部

Intensive Care Unit



連絡先

● 018-834-1111 (病院代表)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/intensive_care_unit.html

生命の危機に瀕している急性期重症患者に対し
総合的・集中的に治療・看護を行っています。

● 特色

集中治療部(ICU: Intensive care unit)とは、呼吸や循環、代謝などが重篤な急性機能不全に陥った患者さんを一カ所に集め、各科の医師が専門的立場から互いに協力して強力かつ集中的に治療・看護を行う部門です。

● 活動内容

ICU入室患者の約半数が心臓血管外科、食道外科、脳神経外科などの予定手術後、半数が心筋梗塞、心不全、重症肺炎、敗血症、重傷熱傷、多発外傷、急性中毒、心肺停止蘇生後などで緊急入室となった方です。予定手術、緊急入室ともに秋田県内全域から受け入れを行っています。

ICUでは、医師は担当診療科の他、集中治療部専任医師1名を24時間配置し治療をサポートしています。看護師は患者2名に対し1名以上を24時間常時配置し状態観察とケアを行っています。専従の臨床工学技士が人工呼吸器や持続的血液浄化装置、体外式膜型人工肺(ECMO: Extracorporeal membrane oxygenation)などの生命維持管理装置の操作や管理を行っています。また、専従の理学療法士が早期リハビリテーションも行っています。2015年8月に1床あたりの床面積を拡張したうえで16床に増床し、より良い環境でより多くの患者さんの集中治療が行えるようになりました。



部長／教授

中永 士師明

Hajime Nakae

メッセージ

高度救命救急センター

Advanced Emergency and Critical Care Center



連絡先

● 018-834-1111 (病院代表)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_emergency_medicine.html

三次救急医療施設として重症患者を
24時間受け入れています。

● 特色

秋田大学医学部附属病院は秋田県の三次救急医療施設として、重症・重篤な救急患者さんを24時間365日受け入れ救命措置や高度な医療を総合的にを行っています。

● 活動内容

高度救命救急センターは三次救急医療の窓口として、現場からの救急搬送や県内各地の病院からの転院搬送を受け入れ初期診療を行っています。その対応は救急科をはじめとして、病状に合わせすべての診療科が協力して行っています。

ドクターカー事業も行い、さらなる救命率の向上を目指しています。



センター長／教授

中永 士師明

Hajime Nakae

メッセージ

三次救急医療施設とは、「緊急性・専門性の高い(中略)疾患に対応して高度な専門的医療を総合的に実施する。その他の医療機関では対応できない重篤患者への医療を担当し、地域の救急患者を最終的に受け入れる役割を果たす」医療施設です(秋田県医療保険福祉計画より)。当院では県内全域から幅広い領域の重症患者さんを受け入れ、救急医療の最後の砦として医療を行っています。

輸血細胞治療・移植再生医療センター

Center for Transfusion medicine and cell therapy · Transplant regenerative medicine



連絡先

● 018-884-6313 (TEL) ● 018-884-6251 (FAX)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_blood_transfusio.html

認定輸血検査技師・細胞治療認定管理師が
レベルの高い輸血医療を提供します。

● 特色

輸血細胞治療・移植再生医療センターでは、アルブミン製剤を含む血液製剤を一元管理するとともに、コンピュータークロスマッチやICタグを用いた認証システムを導入し、安全で適正な輸血を推進しています。当院の血液製剤使用は秋田県の約3割を占め、夜間休日の使用も多く、24時間体制で対応しています。

● 活動内容

①輸血関連検査 ②血液製剤管理(同種血、同種クリオプレシピテートの作製、アルブミン製剤) ③自己血管理(採血、分離、保管、自己クリオプレシピテートの作製) ④移植細胞治療業務 ⑤再生医療等製品の管理

適正な輸血療法は極めて有効性が高いことから年間100万人以上の患者さんに行われています。輸血には、献血由来の同種血輸血と、自分の血液を使用する自己血輸血があります。自己血輸血は、感染症などを回避できる利点がありセンターで推進しています。ドクターカー、緊急輸血などの救急医療、大手術時の輸血管理など他科の医療スタッフとの連携が不可欠です。また、再生医療、細胞移植治療のサポートとして、再生医療等製品の管理、末梢血幹細胞採取、骨髄液処理、臍帯血管理、ドナーリンパ球輸注時のリンパ球採取なども積極的に行っています。



センター長／教授

高橋 直人

Naoto Takahashi

メッセージ

医療情報部

Division of Medical Informatics



連絡先

● 018-884-6049 (医事課医療情報室)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_medical_informatics.html

病院情報システムの管理・運用と電子タグの
医療分野での応用を先進的に進めています。

● 業務内容・特色

当院では、診療記録が電子化され、院内のほとんどの業務が病院情報システムを介して行われており、24時間365日安定した情報システムの運用が不可欠となっています。この病院情報システムの構築や管理運用が主な業務であり、各部門と連携し、2017年11月、8世代目のシステムへと更新し、運用しています。このシステムを支える情報ネットワークには「Virtual Switching System技術」を採用し、平常時には従来の2倍の能力で通信を処理することで、日々成長し続ける診療データや、大規模な医用画像や動画データ等にも十分対応できるものとなっています。

当院では入院患者のリストバンドと注射薬剤・血液製剤に取り付けられた電子タグ(RFID)を携帯端末で読み取り照合する「ベッドサイド安全管理システム」を構築し、運用しています。一般的なバーコード照合の半分の時間で認証確認が可能となり、確認行為に掛かる煩わしさの軽減と情報機器による客観的な確認による医療安全の両立が実現され、総務省「u-Japan大賞」の「2007年度・大賞」を受賞しています。さらに、病棟生体モニタの患者登録、滅菌器材の使用患者登録、手術室入室患者の認証等、医療分野での電子タグの応用を先進的に進めています。



部長／教授

大坪 徹也

Tetsuya Otsubo

メッセージ

血液浄化療法部

Division of Blood Purification



連絡先

●018-884-6307 (秋田大学医学部附属病院 透析室)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_blood_purification.html

腎不全に対する血液透析を中心に
様々な疾患に対する血液浄化療法を行っています。

●特色

本邦で増加する末期腎不全患者さんに対する血液維持透析療法を中心に、血液浄化療法を用いて疾患の原因物質除去を行い、様々な疾患に対する診療を行っています。

●活動内容

①外来・入院末期腎不全患者の維持血液透析、②腎移植患者に対する抗体除去療法、③急性期重症患者に対する持続血液濾過透析、④各種難治性疾患に対する血漿交換療法、⑤潰瘍性大腸炎に対する白血球・顆粒球除去療法、⑥難治性腹水に対する腹水濾過濃縮、⑦バスキュラーアクセスの管理・手術、⑧閉塞性動脈硬化症患者に対するレオカーナ使用

末期腎不全患者に対する血液維持透析療法を受けておられる患者さんは30万人を超え、秋田県でも増加傾向にあります。同時に血液浄化療法による病因関連物質の除去は難治性疾患を含む様々な疾患の治療に応用されています。当部では腎不全患者さんに対する透析療法を行うと共に、腎移植患者さんに対する抗体除去療法として二重膜濾過血漿分離交換法や血漿交換療法を多数行っております。また高齢維持透析患者さんの退院支援に向けた総合的機能評価や、免疫学的ハイリスク腎移植における至適脱感作プロトコールの検討や合併症対策に関する研究を行っています。



部長／教授

羽 瀨 友 則

Tomonori Habuchi

メッセージ

中央病歴部

Division of Medical Records



連絡先

●018-884-6485 (病歴室)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_medical_records.html

全診療科のカルテ(診療録)管理を行っています

●特色

各診療科や各部門の診療記録、検査記録、手術記録、同意書等を管理しています。2017年から電子カルテを導入しております。

●活動内容

各診療科や各部門の診療記録や検査記録、手術記録、同意書等を集中管理するほか、診療情報管理士を含む職員が診療録が適切に作成されているかを確認し、診療科にフィードバックして診療記録の質の向上に努めたり、世界保健機構が定める国際疾病分類による主病名や手術、処置のコーディングを行い、疾病統計に役立てます。また診療や研究、カルテ開示などに必要な診療録の閲覧や貸し出しにも迅速に対応しております。



部長／教授

脇 裕 典

Hironori Waki

メッセージ

私たちは患者さんと直接お会いすることはほとんどありませんが、カルテ(診療録)の管理や運用に関わることで、皆様により良い医療が提供できるように後方から支援しております。

周産母子センター

Perinatal Medical Center



連絡先

●018-884-6163 ●018-884-6447 (FAX)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~obgyn/>

秋田県の地域性と当院の病院機能に適合した 周産期医療の向上

●特色

2014年4月より地域周産期センターに認定され、総合・地域周産期センター、周辺施設と連携を取りながら、緊急度、重症度が高い母体・胎児疾患の救急搬送・紹介の受入を常時行っています。

●活動内容

外来診療は月、火、水、金曜が産科外来、木・金曜が助産師一ヶ月健診、助産師母乳外来です。新患は月、火、水曜、地域連携室を介したFAX予約制です。日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医による診療を基本としています。病棟診療は、月曜午後に教授回診、金曜13時30分から小児科NICU医師、助産師、看護師、臨床心理士とのカンファレンスを行っています。遺伝子医療部と連携を取りながら、産科医師もNIPT外来の担当をしています。

主に秋田県内の患者さん、周産期医療に関連する医療施設の方々から必要とされる周産母子センターとしての病院機能の役割を十分に果たせるように尽力いたします。そして、少子高齢化、過疎化が急速に進む秋田県の中で、一人でも多くの母児が、無事妊娠・出産を乗り越えて、明るい新しい生活のスタートを開始できるように、周産期医療の向上を目指しています。



センター長／教授

寺田 幸弘

Yukihiko Terada

メッセージ

総合診療部

General Clinical Division



連絡先

●018-834-1111 (病院代表)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~gimclm/>

様々な症状の患者さんを臓器横断的に診察し、 適切な治療が受けられるよう診療します。

●特色

高度に専門化された大学病院の中で、受診先をすぐには特定できない臓器横断的な症状等の初期対応・診療を行い、大学病院内の当該診療科や他の医療機関への紹介をしています。

●活動内容

意図しない体重減少や長引く発熱など、臓器横断的な症状や、一次・二次医療機関で診断がつかなかった症状を持つ患者さんを診療しています。他の診療科や他の医療機関では難しかった詳細な問診と、それをベースにした臨床推論を元に診断を付けたり、適切な診療科や医療機関を導き出し紹介しています。

総合診療部外来では、様々な症状をお持ちの患者さんのお話を詳細に聴取することから始まり、各種検査等を行って診断へつなげていきます。現在では外来患者さんのみならず、入院中の患者さんの診断に関するコンサルテーションが増加しているほか、渡航者に健康指導や予防接種を行う「渡航外来」も行っています。



部長／教授

植木 重治

Shigeharu Ueki

メッセージ

臨床研究支援センター

Clinical Research Promotion and Support Center



連絡先

- 018-884-6216 (治験管理部門) ● 018-801-7101 (臨床研究支援部門)
 - 018-884-6468 (あきた治験ネットワーク) ● 018-884-6029 (総務課研究協力室)
(契約・IRB)
- <https://www2.hos.akita-u.ac.jp/chiken/>

臨床研究や新薬治験を安全かつ円滑に実施するための支援をしています。

● 特色

当センターは、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」ならびに「医薬品・医療機器の臨床研究の実施の基準(GCP)」を遵守し、臨床研究や新薬治験を安全かつ円滑に実施するための支援部門として設置されました。専任教員、治験コーディネーター(CRC)、治験薬管理担当者、事務局スタッフなどから構成され、患者さんの元へ有効な新薬や診断治療法を一日でも早くお届けできるよう、日々の業務に取り組んでいます。

● 活動内容

新薬治験業務(CRC業務、治験薬管理業務、治験事務局業務)、医療機器開発業務、臨床研究支援業務、あきた治験ネットワーク事務局業務、研究成果の啓発事業等

病気の臨床特徴を調べ、新しい治療法や診断法を開発し、その有効性や安全性、精度などについて検証することを「臨床研究」と呼びます。中でも、新しい治療薬の承認を得るために行う臨床研究を「治験」と呼びます。当センターでは製薬企業が行う新薬治験の受託に加え、医学研究者主導で行う身近な小規模の臨床研究や、全国多施設で行う共同研究まで、質の高い臨床研究が実施できるよう支援しています。また、臨床研究について患者さんのご理解が得られるように、情報提供や啓発事業にも精力的に取り組んでいます。

臨床工学センター

Clinical Engineering Center



連絡先

- 018-884-6224
- https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/clinical_engineering_center.html

チーム医療に貢献するCE(Clinical Engineers)

● 特色

生命維持管理装置の保守点検管理および操作を行う臨床工学技士が、医療機器の安全かつ効率的な運用を行うとともに、臨床現場において患者さんおよび医療スタッフへ高度な専門的技術の提供に努めています。

● 活動内容

中央手術部、集中治療部、血液浄化療法部にて、人工心肺装置、手術支援ロボット、人工呼吸器、血液浄化装置などの医療機器の管理、操作を行っております。その他、医療機器管理室にて病院内の輸液ポンプ、シリンジポンプなどの集中管理を行っております。

現在、臨床工学技士18名で中央手術部、集中治療部、血液浄化療法部、医療機器管理室にて業務対応をしております。心臓血管カテーテル業務や人工心臓外来業務にも対応し、今後は循環器内科手術などの業務拡大を進めております。専門的な医療技術を以て、チーム医療に貢献します。



センター長／教授
三島 和夫
Kazuo Mishima

メッセージ



センター長／教授
新山 幸俊
Yukitoshi Niiyama

メッセージ

移植検査センター

Center of Histocompatibility and Immunogenetics



連絡先

● 018-884-6313 (輸血細胞治療・移植再生医療センター)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/center_of_histocompatibility_and%20immunogenetics.html

移植関連抗体検査とHLA typing

● 特色

移植医療において、提供者(ドナー)と患者(レシピエント)の免疫学的な相性はHLA (Human Leukocyte Antigen)によって決まります。この相性を組織適合性といいます。HLA分子の組み合わせは両親から遺伝的に受け継いだ染色体ハプロタイプを反映しています。HLAのハプロタイプには人種性、民族性、地域性がありますが、単一民族である我が国でさえも組織適合性が完全合致する割合はおおよそ10万人に1人とされています。また、グローバル化が進む現代においては日本人HLAだけでなく広範囲に組織適合性を評価することも求められ、その一致率は今後ますます多様化することが予想されます。

● 活動内容

当センターでは、臓器移植希望者や提供者のHLA型検査ならびに移植前後の抗HLA抗体検査を行っています。また、直接クロスマッチ試験用血清を自施設保管するとともに全国移植施設へ検体送付も行っています。

Luminex®システムの導入、フローサイトメトリの導入を経て、幅広い移植検査体制の整備を進めています。そして、秋田県内の移植医療をサポートし、移植成績の向上に貢献することを目指します。



センター長／教授

高橋 直人

Naoto Takahashi

メッセージ

総合臨床教育研修センター

Center for Medical Education and Training



連絡先

● 018-884-6233 (卒後臨床研修担当) ● 018-884-6427 (シミュレーション教育センター受付)

● 018-884-6430 (あきた医師総合支援センター担当)

① <https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/cmet/> (総合臨床教育研修センター)

② <https://www.hos.akita-u.ac.jp/sim/> (シミュレーション教育センター)

③ <https://akitamd-support.com/> (あきた医師総合支援センター)

医学・医療教育／研修をシームレスに発展させ、理想的な医療の質向上を実践レベルで追求します!
卒後臨床研修と一貫した各分野専門研修を充実させております!

● 特色

当センターは、これからの理想的な医師・医療者の教育／研修ニーズに対応し、卒前教育、卒後臨床研修、各分野専門研修、多職種連携教育、生涯教育の各段階における教育研修をシームレスに発展させ、医療の質を保証する体制を構築していくことにより、将来に渡って患者さんの健康と安全に寄与することを目的に開設されました。医師、看護師、薬剤師をはじめとする院内各科、各部門の委員による分野横断的な統合教育・研修を推進しております。

● 活動内容

(1) 卒後臨床研修、各分野専門研修、(2) 卒前医学教育、(3) 多職種連携教育(IPE: inter professional education)・医療職を超えた連携教育(trans professional education)の充実、(4) e-ラーニングとハイブリッドしたシミュレーション教育／研修の充実、(5) 医師のキャリア支援、生涯教育サポート、(6) ダイバーシティ&ワークライフバランス、男女共同参画推進、(7) 次世代を担う小・中・高校生へ入学前教育の充実



センター長／教授

高橋 直人

Naoto Takahashi

メッセージ

All for Patient Safety! 『患者さんの健康と安全のために、医学・医療教育／研修の質を保証して、すべての医療者の教育力を向上させる』

当センターでは、上記の活動により、医学・医療教育／研修の充実と、教育力ある優れた医療人の育成を推進することで、理想的な医療の質向上を実践レベルで追求していきます。さらに各診療科・各部門及び県内・国内外医療機関と連携して、皆様のニーズに沿った教育・研修をサポートしていきます。

内視鏡・超音波センター

Endoscopy and Ultrasonography Center



連絡先

●018-884-6713 (内視鏡・超音波センター受付)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/endoscopy_and_ultrasonography_center.html

内視鏡と超音波診断装置を用いて各種消化器、循環器疾患の診断と治療を行っています。

●内視鏡

日本消化器内視鏡学会指導施設として認定されています。上部消化管内視鏡や大腸内視鏡といった一般的な検査から、カプセル内視鏡による小腸検査、胆膵系も含めた専門的な技術を要する内視鏡の治療も積極的に行っています。

●超音波

心エコー検査、腹部超音波検査を行っています。三次元心エコー図法、スペックルトラッキング法のような新しい手法を用いた詳細な心機能評価も取り入れています。また、頸動脈、下肢動脈、下肢静脈などの血管エコー検査も行っています。

内視鏡・超音波センターでは、秋田全県下から難しい症例も含め、多数、症例が集積しています。内視鏡・超音波を用いた治療では、患者様の負担をできるだけ少なくしつつ、十分な治療効果が得られるように、常に新しい技術を導入し、秋田にいてもハイレベルな医療を受けられる環境を維持していきます。また、内視鏡・超音波治療における磨き上げた技術を若手医師にも伝授していくことで、専門医の裾野を広げていきたいと思っております。



センター長／教授

飯島 克則

Katsunori Iijima

メッセージ

遺伝子医療部 遺伝カウンセリング部門 遺伝性腫瘍部門

Division of Genetic Counselling



連絡先

●018-884-6575 (遺伝カウンセリング受付) ●018-884-6159 (小児科医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~syouni/ideniryoy/>

『遺伝の総合診療科』としての遺伝に関する患者さんへの情報提供と心理サポートを行っています。

●特色

複数の診療科における遺伝の専門医が在籍し、患者さんへの遺伝に関する情報提供と心理支援を目的とした遺伝カウンセリングを行っています。また遺伝性腫瘍と診断された患者さんに複数の診療科が連携をして支援を行っています。

●活動内容

遺伝カウンセリングの対象である疾患：家族性腫瘍(家族性大腸腺腫症、褐色細胞腫、HBOC、NF1)、種々の筋ジストロフィー、脊髄小脳変性症、染色体異常、先天代謝異常、内分泌疾患、先天奇形、他。

「遺伝」は誰にとっても特殊なものではなく、あらゆる病気・体質に関連しています。一般の方にもこのヒトの多様性を十分に理解し、遺伝の情報を有効に利用していただくため、遺伝に関する疑問やご不安へのカウンセリング、診療上の遺伝学的検査や遺伝学的研究におけるご説明、などを担当しています。

また、がんゲノム医療の発展に伴い、遺伝性腫瘍と診断された患者さんに対応するために、遺伝性腫瘍部門を設立し、複数の診療科にてフォローが必要となる患者さんに、診療科どうしが連携して、がんの予防・早期発見に努めています。



部長／教授

高橋 勉

Tsutomu Takahashi

メッセージ

腫瘍情報センター

Center for Cancer Registry and Information Services



連絡先

● 018-884-6286 (登録室)

① https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/center_for_cancer_registry_and_information_services.html

② <https://www.hos.akita-u.ac.jp/onco/> (秋田県がん診療連携協議会)

秋田のがんの今を知って未来に備える

● 特色

院内がん登録では、当院を訪れるがん患者さんのがん発生部位・がんの進行度・がん治療法・治療を受けた患者さんの予後(生存率)などについて調査します。当センターではこの業務に加え、秋田県内の各病院ごとのがん登録データを収集し、解析しています。

● 活動内容

①院内がん登録・全国がん登録、②秋田県全体のがん登録データ解析、③がん登録研修

あしたの「がん医療」を良くするには、「がん医療」の今を知らなくてはなりません。「腫瘍情報」はいわば羅針盤です。「がん医療」の未来は全てここから始まります。収集されたがん登録データは、個人情報保護に配慮しながら、秋田県民の皆さまに情報提供しています。なお、秋田県内の中核病院のがん診療実績(がん登録件数・手術件数)や5大がんの施設別病期別5年相対生存率について調査しますので、御協力をお願いします。



センター長/教授

柴田 浩行
Hiroyuki Shibata

メッセージ

地域医療患者支援センター・がん相談支援センター

Consultation Support Center / Center for Cancer Patient Support



連絡先

● 018-884-6283 (直通) ● 018-884-6564 (FAX)

● E-mail:sodans-sc@hos.akita-u.ac.jp

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/soudan/>



入院前から退院、その後の療養生活や社会復帰等まで、一貫した支援体制で、患者さんやご家族をサポートします。

● 特色

入院前から退院までの総合的・一元的な支援、地域医療機関等との連携、がんに関する情報収集・相談支援及びその他各種相談窓口としての役割を担い、医師・看護師・MSWの多職種が協働して、各部門間の連携を強化しながら患者サービスの向上を図り、患者さんやご家族を支援しています。

● 活動内容

- ・入院前支援:入院前の情報収集、入院生活に関する説明、退院支援、医療費・福祉相談等
- ・地域医療連携:FAXによる紹介新患予約、紹介・逆紹介の返書管理等
- ・がん・遺伝相談:がんに関する情報の収集や提供、セカンドオピニオン、ピアサポート
- ・相談支援:患者さん等からのご意見への対応、難病に係る相談・支援、就労相談等

入院前から退院後まで「その人らしい」暮らしを途切れさせないために、医療・介護サービスの切れ目ない情報収集と把握・情報提供と伝達・連携等に力を注いでいます。入院退院支援に関わる体制の整備により、これまで以上に、切れ目のないきめ細やかな支援が展開できるようになりました。がん相談においては、小児・AYA世代にあるがん患者支援をはじめゲノム医療、希少がん等にも対応しています。特に働く世代のがん患者等の「就労支援」は実績を重ねています。センターには、がん看護専門看護師、遺伝看護専門看護師、難病診療コーディネーターが所属し、専門的知識を生かしながら意思決定支援や療養生活支援に精力的に取り組んでいます。今後も、院内外問わず、関係機関や部署と協力しながら患者サービス向上に努め、支援していきたいと思っております。



センター長/教授

飯島 克則
Katsunori Iijima

メッセージ

化学療法部

Division of Cancer Chemotherapy



連絡先

● 018-884-6279 (外来化学療法室) ● 018-884-6261 (医局)

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~medonco/>

日常生活と両立したがん治療を提供します。

● 特色

進行癌は通常、緩徐に経過します。慢性疾患と言う事もできます。したがって癌の薬物療法は定期的、継続的に行われます。治療のために入院を繰り返すことは個人生活、社会生活などが犠牲になることもあります。化学療法部では安全性や科学性が審査された薬剤が使用されます。また、多くの患者さんが通院で治療ができるように外来化学療法室を運営します。

● 活動内容

抗癌剤のプロトコールの審査。外来化学療法の管理、運用。

抗癌剤治療は副作用のある治療ですが、きちんと管理された状況で行えば通院で行うことが可能です。多くの癌拠点病院で外来化学療法室の設置が認定要件になっています。初めは抗癌剤治療を外来で行うのは不安だという患者さんもおられます。しかし、外来化学療法室では診療ベッドあたりの看護師数など入院病床よりも数倍手厚く、また、業務は抗癌剤治療に特化しています。したがって、安全性が高く、患者さんの利便性にも配慮されています。もちろん、体調がすぐれない時はすぐに入院応需するというのも外来化学療法の設置条件ですので、ご安心ください。2022年4月よりベッド数が16床から20床の増床となりました。今後もみな様の期待に応えるよう努めます。



部長／教授

柴田 浩行

Hiroyuki Shibata

メッセージ

緩和ケアセンター

Palliative Care Center



連絡先

● 018-884-6223 (緩和ケアセンター相談室)

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/kanwa/>

がん・非がん患者さんの全人的苦痛に多職種で対応しています。

● 特色

がんに限らず、病気によって困難となった、これまでの生活を取り戻し、維持しながら治療を続けることを支援します。緩和ケアに関する、医師・看護師・薬剤師・心理士・管理栄養士など多職種専門家チームが担当します。

● 活動内容

入院・外来を問わず、患者さんの苦痛に対して、主治医や担当看護師から相談を受けて、多職種からなるチームで、患者さんと担当医療スタッフと伴に困難に対する対策を行ってゆきます。また、緩和ケア外来では、緩和ケアに関わる依頼の他、リンパ浮腫診断・指導・支援を院外からも受付けています。院内患者に対しては、ホスピス連携等を実施しています。

終末期ケアのみならず、診断・告知後の気持ちのつらさ、治療による副作用対策、がんと共に生活している方々・ご家族の支援など、がん治療のあらゆる局面において、治療スタッフと連携して関わってゆきます。さらに、がん患者さんの様々な局面における苦痛をスクリーニングし、医療スタッフとのコミュニケーションを通して、適切な支援を行う取り組みや、専門・認定看護師によるがん看護外来での個別的支援にも力を入れています。



センター長

安藤 秀明

Hideaki Andoh

メッセージ

肝疾患相談センター

Liver Disease Consultation Center



連絡先

●018-884-6297

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/liver_disease_consultation_center.html

肝疾患に関する相談、最新治療の情報提供、啓発活動を行っています。

●特色・活動内容

当院は秋田県の肝疾患診療連携拠点病院として、肝疾患相談センターを設置し肝疾患に関する相談や啓発活動に力を入れています。患者さん、家族、市民を対象に患者教室の「秋田肝臓大学」を大学内の講義室で定期的で開催または、「肝臓大学新聞」の定期発行をしています。また、日本肝臓学会肝がん撲滅運動の一環として市民講座を秋田市民交流プラザアルヴェで開催しています。さらに県内の医療機関と連携して秋田県の肝疾患に関するデータを集積・分析し、肝疾患診療の向上を目指した情報発信を行っています。

日本の肝硬変、肝がんの原因の大部分を占めるC型肝炎ウイルスは、副作用の少ない飲み薬で95%までウイルスを消失させることができるようになりました。B型肝炎も飲み薬を飲み続けることでウイルスの増殖を抑えることができます。肝炎治療に関しては、秋田県の医療費助成制度を利用して経済的負担が少ない状態で治療に向かうことができます。我々は、肝炎撲滅、最終的には肝がん撲滅を目指して活動しています。



センター長／准教授

後藤 隆

Takashi Goto

メッセージ

栄養管理部

Division of Nutrition Management



連絡先

●018-884-6296 (栄養管理部)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_nutrition_management.html

適切な栄養療法を選択し、生命予後およびQOLの改善につながる取り組みを行っています。

●特色

フードサービスとクリニカルサービスを連携させてマネジメントすることで、治療効果の向上を図ることを目的として活動しています。

●フードサービス

厚生労働省通知の「大量調理施設衛生管理マニュアル」を基本とした安全な食事と、病態や摂取状況に応じた個別対応食および選択メニューや行事食、季節感あふれる食事の提供を心がけています。

●クリニカルサービス

入院患者さんの栄養ケアプランを作成し継続的な栄養管理を行っています。チーム医療に参画し栄養面から治療のサポートを行っています。医師の指示に基づいた入院・外来栄養食事指導や、医師・看護師と連携した、外来糖尿病腎症の患者さん対象の糖尿病透析予防指導を行っています。

多職種で栄養状態の改善を図っていく栄養サポートチーム(NST)を組織し、院内各チームとも連携して活動しています。情報誌「えいよう」の発行と研修会の開催を通し、栄養に関する知識の習得や院内外スタッフへの情報提供を行っています。県内外の栄養士・管理栄養士養成施設から実習生の受け入れを行っています。



部長／教授

脇 裕典

Hironori Waki

メッセージ

腎疾患先端医療センター

Center for Kidney Disease and Transplantation



連絡先

● 018-884-6259 (医局)

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/jin>

腎炎から腎移植までの腎疾患トータルマネジメント

● 特色

腎疾患先端医療センターは、慢性腎臓病(CKD)の予防、早期発見・治療のための啓発活動、そして血液透析、腹膜透析、腎移植まで、腎疾患のトータルケアに関わっています。特に、秋田県における質の高い腎移植を推進するため、啓発のための市民公開講座や講演はもちろんのこと、移植に必要な検査であるHLAタイプング、クロスマッチ検査にも重点を置いています。

● 活動内容

CKDや腎移植に関する講演会・研究会・院内勉強会・近隣薬局との連携活動、腎移植後の相談窓口であるレシピエントコーディネーターの育成、移植後のドナー特異的抗体(DSA)の検索、移植相談、泌尿器科と共同での腎移植と移植後ケア、慢性腎臓病関連の市民公開講座開催など。

成人の15パーセントはCKDです。すなわち、8人に1人は末期腎不全で透析療法になるリスクを有しています。秋田県は塩分摂取量が多く、高血圧が多い県です。また糖尿病も全国平均より多い地域です。高血圧も糖尿病もCKDにつながる病気です。腎臓は老化していく臓器で、CKDがあると進行しやすくなります。そのため、CKDの早期発見が大切です。一方、残念ながら腎機能が低下した方には透析療法が腎移植が必要になります。我々は腎代替療法の中で最も優れている腎移植を推進し、その検査、手術、免疫抑制療法において先進的な質の高い診療を目指しています。



センター長／教授
羽 渕 友 則
Tomonori Habuchi

メッセージ

脳卒中包括医療センター

Stroke Comprehensive Medical Center



連絡先

● 018-884-6140

<https://www.med.akita-u.ac.jp/~noushin/>

超高齢社会においてより良い脳卒中治療を行うため、急性期から慢性期、二次予防まで対応した診療を行っています。

● 特色

脳神経外科、神経内科、救急科、リハビリ科、循環器内科、患者支援センター、看護部、薬剤部、事務部が運営に携わり、脳卒中の急性期から回復期、維持期の包括的診療に対応しています。

● 活動内容

当センターでは、脳卒中急性期の入院治療と二次予防の外来診療を行っています。脳梗塞超急性期の血管内治療は2名の脳血管内治療専門医のもとに推進しています。また循環器内科やリハビリテーション科との連携で、より精密な診断、治療を提供できる体制を整えています。

日本では、脳卒中は毎年約30万人発症しています。おおよそ1分40秒に1人、日本のどこかで脳卒中になる人がいることになります。脳卒中の発症率は若い人より高齢者で高く、また再発率の高いタイプの脳梗塞が高齢者では多くなってきます。そのため超高齢社会では、脳卒中の発症予防のみならずより良い治療、再発予防も重要になってきます。当センターでは、最新の技術と知識のもとに診断、治療を行い、高齢化率日本一の秋田から世界に向けたエビデンスを発信していきます。



センター長／教授
清 水 宏 明
Hiroaki Shimizu

メッセージ

認知症医療センター

Medical center for the major cognitive disorder



連絡先

●018-884-6369 (外来)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/department_of_geriatric_clinical-examination.html

高齢者の方々に安心していただける認知症の診療を行います。

●特色

当センターでは、本学の全学組織である高齢者医療先端研究センターと連携しながら、さまざまな認知症の診断や治療を行っています。高齢者の方ご本人やご家族の方の意思や尊厳を第一に考え、皆様にご安心していただけるような認知症に関する医療を提供いたします。

●活動内容

当センターでは、主に認知症に必要な精神神経心理検査や画像診断を行い、精密な確定診断を行います。また診断後にも各診療科の医師、看護師、臨床心理士や地域の医療機関と連携し、ご本人およびご家族にとってよりよい生活が送れるように支援していきます。

認知症は日本全国で700万人以上にものぼると推計され、65歳以上の高齢者の5人に一人は認知症になるという、今や高血圧や糖尿病のように誰もがなり得る非常に身近な病態になっています。この認知症は、さまざまな要因により症状が良くも悪くもなります。認知症と診断されても、ご本人の意思と尊厳を大切にしながら、認知症とともによりよく生きていくことができるようサポートしてまいります。



センター長／教授

南谷 佳弘

Yoshihiro Minamiya

メッセージ

総合診療医センター

General Physician Center



連絡先

●018-884-6428

<http://akitagpnet.org>

「総合診療能力」を持つ医師の育成と支援を行っています

●特色

頻度の高い健康問題に対応し、患者さんの病気だけでなく社会的な背景を含めた全人的な医療を提供する「総合診療医」の育成と支援を行っています。

●活動内容

2020年、秋田大学の提案する総合診療医養成プロジェクトが厚生労働省の支援事業に採択され、発足したのが総合診療医センター(GPセンター)です。さまざまな地域医療の課題に対応するには、よくある症状や病気に対応でき、必要に応じて地域の医療サポートや各分野の専門医と連携できる総合診療医の育成が必要です。医学部へ入学前から卒業後まで、総合診療に関わる幅広い対象に教育啓発活動を行うとともに、勉強会や症例検討会などの各種イベントを開催し、地域の医療機関と連携して総合診療医を養成しています。

秋田県は高齢化や医療の地域格差という潜在的な問題を抱えており、全ての医師が「総合診療マインド」を持つことが求められます。総合診療医を中心に、患者さんの希望に沿った医療の提供だけでなく、地域ぐるみの健康増進に取り組むことで、格差のない医療介護体制の確立を目指します。



センター長／教授

植木 重治

Shigeharu Ueki

メッセージ

がんゲノム診療センター

Center for Cancer Genome Diagnosis & Treatment



連絡先

● 018-801-7115 (がんゲノム診療センター) ● 018-884-6261 (医局)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/genome_diagnosis.html

難治性がん最新の臨床研究の成果をたくり寄せる、
近未来型のがん薬物療法の臨床実装。

● 特色

これまで自由診療だった「がんゲノム診断」が保険適応となりました(2019年6月)。150から300個の癌関連遺伝子を網羅的に調べます。現在のところは、すぐに使える薬が見つかる割合は1~2割ですが、より理論的に適した薬剤を見つけ出すことができます。

● 活動内容

治療がなくなった「難治がん」、または治療法の確立されていない「希少がん」(ただし、固型がん)の方が対象です。3年以内の手術標本が生検組織があれば、検査可能です。データは国立がん研究センターのデータセンター、C-CATで解析され、約2ヶ月で結果を報告できます。2021年度は149件の依頼がありました。

「がん」は国民を苦しめる難病です。人類は昔から、この病と戦ってきました。「がん」は1960年代から日本人の死亡原因の首位を独走しています。長寿命と引き換えに人類には「がん」が残されました。20世紀の後半から医学の英知は「がん」に向けられ、その成果が結実しつつあります。ほとんどの「がん」は後天的に遺伝子が壊れて発生します。壊れた遺伝子の機能を補正する薬剤を投与するのが「がんゲノム診断」です。毒で「がん」を殺す時代は去りつつあります。しかし、薬が出そろった訳ではなく、時期尚早な部分もありますが、医学の進歩を一刻でも早く悩める人に届けたいという思いから国策的に、この検査が保険承認されました。一人でも救える人が出てくることを祈念しつつ取り組んでゆきます。



センター長/教授
柴田 浩行
Hiroyuki Shibata

メッセージ

NP室

Division of Nurse Practitioner



連絡先

● 018-801-7177 (NP室)

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_nurse_practitioner.html

多くの専門職者とともに患者さんにより良い医療が
提供できるように努めてまいります

● 特色

診療看護師(NP)とは、日本NP教育大学院協議会が定めるNP資格認定試験合格、特定行為38行為21区分のすべてを習得している看護師です。当院では1年間の卒後研修を行い、各診療科の医師とともに診療を行います。多職種と協働しながら安全で良質な医療を、治療と看護双方の視点から提供することを目指しています。

● 活動内容

個々の患者さんの診療上および療養上のニーズを的確に把握し、倫理的かつ科学的な根拠に基づき、必要とされる相対的医行為や診療を自律的にタイムリーに提供できるように活動しています。

2022年度に創設され、7名の診療看護師が各診療科に在籍し、診療科医師・看護師等のメディカルスタッフと共に活動しています。患者さんに、質の高い安心・安全・安楽な医療を提供するために、チーム医療の要として活動しています。病院での診療の他に、高校生・学部学生・大学院生・メディカルスタッフの教育活動にも参画し、多面的協力体制構築に励んでいます。



室長/教授
安藤 秀明
Hideaki Andoh

メッセージ

医療安全管理部

Division of Medical Security and Patient Safety



連絡先

●018-884-6222

https://www.hos.akita-u.ac.jp/departmentlist/division_of_medical_security_and_patient_safety.html

医療安全管理部は、当院全体の医療安全に関することを担当する部署です。

●特色

組織横断的に病院全体の医療安全管理を行うことを目指し、専従の医師1名、薬剤師1名、看護師2名、事務1名の5名のメンバーで運営されています。スタッフ一丸となって医療安全のため、日々取り組んでいます。

●活動内容

インシデント報告の調査・分析・改善策の立案、医療安全対策マニュアルの作成・周知・見直し、医療環境の整備を行うことを目的に院内各部署の巡回、全職員に対する医療安全研修会の企画・開催などを行っています。

医学と医療の分野はめざましい勢いで進歩しており、日本の医療はまさしく世界の最先端を走っていると言っても過言ではありません。一方で、その内容はますます専門的・侵襲的となり、一つの医療事故が患者さんの生命を脅かし、重篤な後遺症を残してしまう可能性が高まっているのも事実です。今後、加速的に普及するであろう最先端の医療が行われるためには、その安全性が担保されている必要があります。リスクをゼロにすることは不可能ですが、限りなくゼロに近づけることは可能です。それに向けた努力を職員全員で継続していくことが大切だと思います。



部長／准教授

木村 哲

Tetsu Kimura

メッセージ

感染制御部

Division of Infection Control and Prevention



連絡先

●018-884-6248

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/ict/>

医療関連感染を未然に防いで診療の安全を保つとともに、新興感染症に対する地域全体での対応体制の整備にも取り組んでいます。

●特色

新型コロナに代表される新興感染症や抗菌薬耐性菌感染症など、病院は多くの感染症の危険にさらされています。「感染制御」とは、感染症の発生を未然に防ぐことと、発生した感染症を制圧することです。私たちは、院内の感染症リスクを下げ、当院の医療の安全を高めるとともに、地域全体の感染症リスクを下げる活動にも取り組んでいます。

●活動内容

耐性菌・血流感染モニタリングと抗菌薬適正使用の推進、感染症診療コンサルト対応、アウトブレイク対応、職業感染への対応、医療者・職員・学生への教育啓発活動、地域全体への新興感染症対応の研修・訓練、感染対策マニュアルの作成と更新などを行っています。

感染症は「伝染する」ことがある病気です。病院には、病気や治療のために免疫力が低下した患者さんも多くいらっしゃいます。また、業者さんやお見舞いの方など多くの人が出入りする場所でもあります。病院の安全な環境整備につとめ、患者さんに安心して高度な医療を受けて頂くために、感染症の現状を把握して迅速に対策を行うことが重要です。これに加えて新型コロナに代表される新興感染症には地域全体で対応する必要があります。私たちが地域の「司令塔」として感染症に対する秋田の安全・安心を高めるための体制作りにも取り組んでいます。



部長／病院教授

嵯峨 知生

Tomoo Saga

メッセージ

薬剤部

Department of Pharmacy



連絡先

● 018-884-6309 (薬品情報室)

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/di/>

個々の患者さんに合わせた有効かつ安全な薬物療法を支援いたします。

● 特色

患者さんの生活スタイルや体質に合わせて、服薬方法や投与量の提案を図っております。また、薬が関連する部署に薬剤師を配置し、チーム医療にも積極的に参画しています。

● 活動内容

主な内容は、調剤、注射薬供給、製剤(抗がん剤調製・高カロリー輸液調製)、服薬指導、持参薬確認、薬品情報収集、血液中薬物濃度測定、治験薬管理などです。また、医学・薬学教育に加え、臨床研究にも積極的に関わっています。

目の前の患者さんに対して最善の薬物治療を提供しながら、近未来を見据えて、高度で良質な薬物治療を提供できるよう日々切磋琢磨しております。また、医療スタッフへの医薬品適正使用の啓発や医薬品安全情報の提供も積極的に行っています。一方で、秋田県の医療を活性化させるために、医療人の育成も進めております。我々は「臨床、教育、研究」のバランスを保ちながら、患者さんに対して最高のPharmaceutical Careの実践を心がけています。



部長/教授

菊地 正史

Masafumi Kikuchi

メッセージ

看護部

Division of Nursing



連絡先

● 018-884-6318 (看護部管理室)

<https://www.hos.akita-u.ac.jp/kango/>



私たち看護職員は、常に患者さんの暮らしの視点に立ち、そばで支える看護を提供します

● 特色

看護部は病院の使命である良質で高度な医療を安全に提供するために、全看護職員が役割を發揮し、患者さん自身の力を引き出し、そばで支え、望む暮らしにつながる看護の実践を大切にしています。

● 活動内容

地域の中の大学病院としての役割を認識し、その人の望む暮らしにつながる看護を提供するため、患者さんを支えるすべての職種・職員と良好なコミュニケーションを図りチーム医療を提供しています。また専門看護師・認定看護師、特定行為看護師がそれぞれの分野で専門性を發揮し、より質の高い医療・看護の提供に力を注いでいます。また、教育プログラムを充実させ、看護職員の一人ひとりに寄り添ったキャリア支援や成長と看護の質向上に努めています。

全看護職員は共に働く仲間として、「対話」「敬意」をもってコミュニケーションを図り、互いに支え合い、成長し合うとともに、一人ひとりの存在が大切にされる職場作りに取り組んでいます。また、看護の専門性を高めるための研修受講、進学、育児、介護、再雇用など多様な働き方をしながら頑張っている看護職員が多くいます。それぞれが「なりたい自分」を思い描きながら輝けるように支援しています。



部長

中村 美央

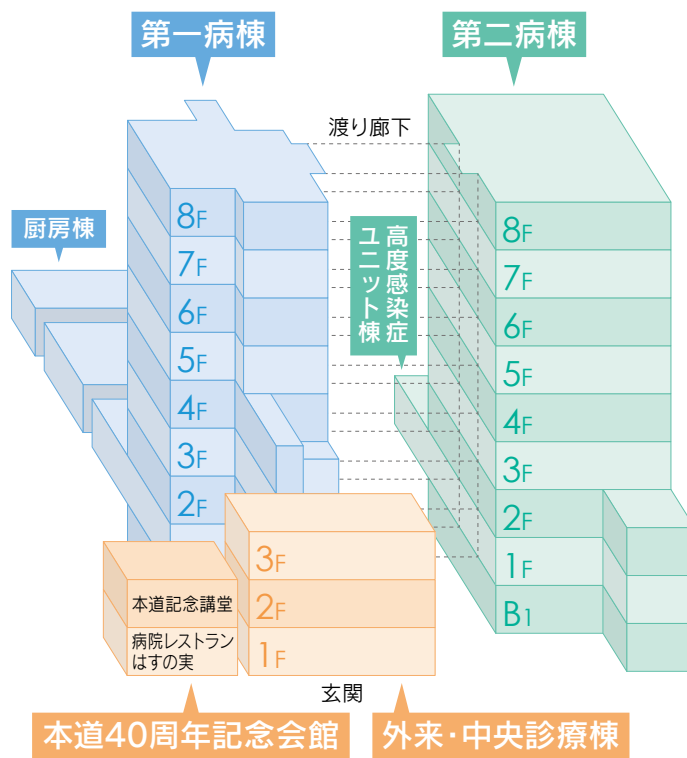
Mio Nakamura

メッセージ

病院案内図

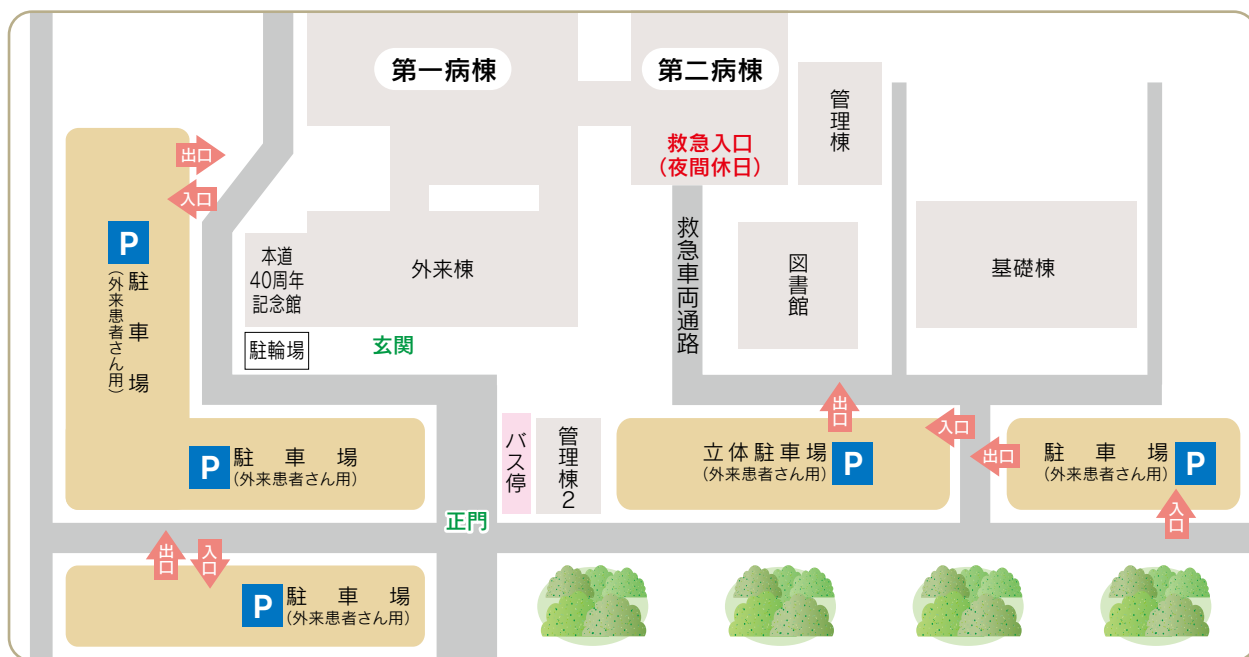
令和3年4月1日現在

	第一病棟	第二病棟
8F	整形外科 脳神経内科	血液内科 腎臓内科 リウマチ科
7F	眼科 呼吸器外科 乳腺・内分泌外科	呼吸器内科 耳鼻咽喉科
6F	消化器外科 食道外科	消化器内科 腫瘍内科
5F	小児科 小児外科 新生児集中治療管理室(NICU) 回復期治療室(GCU) ひまわり学級 けやき学級	産科 婦人科 糖尿病・内分泌内科 老年内科 周産母子センター
4F	脳神経外科 皮膚科 形成外科 臨床研究支援センター	循環器内科 心臓血管外科
3F	集中治療部(ICU) 中央手術部	精神科
2F	血液浄化療法部 感染制御部 輸血細胞治療・移植再生医療センター	泌尿器科 糖尿病・内分泌内科 老年内科
1F	放射線診断科 放射線治療科 歯科口腔外科 麻酔科 救急科 アイソトープ検査室 理容室 栄養管理部 厨房棟	高度救命救急センター 救急外来 内視鏡・超音波センター 心大血管リハビリテーション室 高度感染症ユニット棟
B1	医療情報部 医療情報室 放射線治療センター 中央材料部 SPDセンター	臨床工学センター



外来・中央診療棟				
皮膚科 形成外科 精神科	病理診断科・病理部 医療安全管理部 看護部	総合診療医センター 緩和ケアセンター 総合診療部		
消化器外科 食道外科 消化器内科 血液内科 腎臓内科 リウマチ科	泌尿器科 耳鼻咽喉科 歯科口腔外科 腫瘍内科 外来化学療法室 脳神経外科	麻酔科 漢方外来 小児科 小児外科 中央検査部 薬剤部		
緩和ケア外来 がん看護外来 循環器内科 呼吸器内科 心臓血管外科 呼吸器外科 乳腺・内分泌外科 産科 婦人科 眼科 整形外科 脳神経内科	高齢者臨床検査科 認知症医療センター 糖尿病・内分泌内科 老年内科 リハビリテーション科・部 放射線診断科 放射線治療科 中央放射線部 地域医療患者支援センター・ がん相談支援センター 外来受付・会計 入院案内	医事課 医療サービス室 売店 コーヒーショップ ATM 警備員室 防災センター 院内図書室 入院セット受付窓口 栄養相談室		

病院駐車場・交通機関案内



秋田中央交通バスをご利用の場合

- 手形山経由大学病院……………秋田駅西口⑫番線 → 手形山団地 → 大学病院前
- 赤沼、太平、松崎団地、各線……………秋田駅西口⑪番線 → 三吉神社前 → 谷内佐渡 → 大学病院前
- 赤沼線……………秋田駅東口②番線 → 碓 → 南団地 → 大学病院前

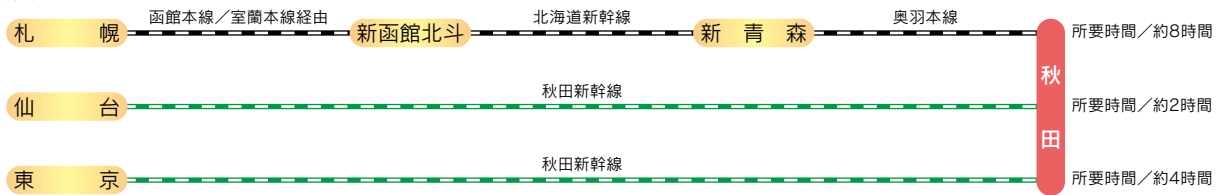


名 称	所 在 地	電 話 番 号
大学院医学系研究科・医学部	〒010-8543 秋田市本道一丁目1番1号	(018)-833-1166(代)
医学図書館		(018)-884-6052
医学部附属病院	〒010-8543 秋田市広面字蓮沼44番2	(018)-834-1111(代)



秋田新幹線「こまち」
AKITA Shinkansen "Komachi"

鉄道



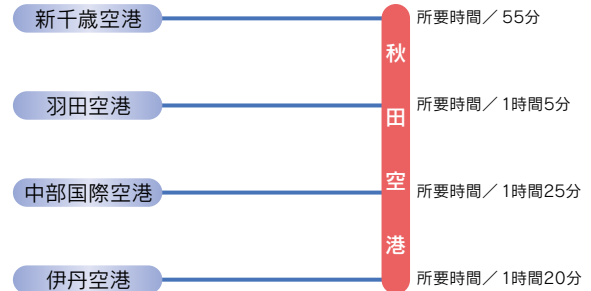
高速バス



高速道路



航空



秋田大学医学部附属病院



編集／発行
秋田大学医学系研究科・医学部総務課
令和5年